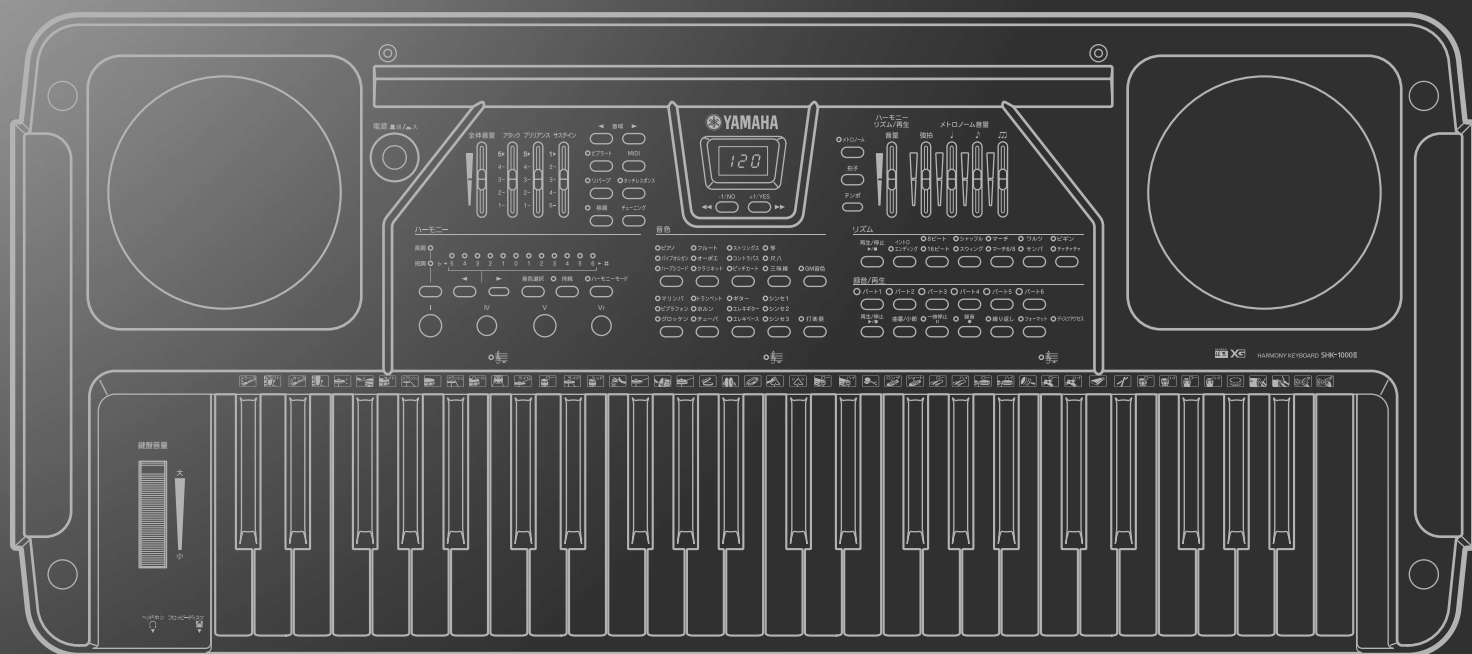




# 学校用ハーモニーキーボード

## SHK-1000II



## 取扱説明書

# 安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

## 記号表示について

○記号は、危険、警告または注意を示します。

⊘記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

●記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

\*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



## 警告

この表示内容が無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または別紙のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。



電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または別紙のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。



本体の上に乗らない。

転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



本体を立てかけない。

転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



## 注意

この表示内容が無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。



譜面台を人に向かって投げたり、振り回したりしない。

相手の身体に当たるなどして危険です。また、譜面台に無理な力を加えないでください。



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



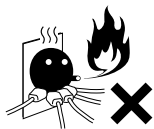
電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。

## ⚠ 注意

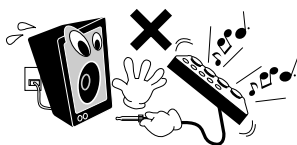
この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

- ⊘ タコ足配線をしない。  
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



- ⚠ 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。  
感電、ショート、発火などの原因になります。

- ⚠ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき、適切な音量にする。  
感電または機器の損傷のおそれがあります。



- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。  
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。  
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



- ⊘ 不安定な場所に置かない。  
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

- ⚠ 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。  
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。

- ⚠ 2人で静かに運びましょう。  
本体を移動するときには、引きずったり、押したりしないで、2人以上で静かに運びましょう。

- ⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。  
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

- ⊘ ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。  
本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

- ⊘ 本体を壁につけない。  
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生する恐れがあります。

- ⊘ 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しない。  
聴覚障害の原因になります。



- ⊘ ディスクドライブのフロッピーディスク挿入口にフロッピーディスク以外の物を差し込まない。  
フロッピーディスク挿入口には、3.5インチフロッピーディスク以外のものを挿入しないでください。ディスクドライブが正常に作動しなくなる恐れがあります。  
フロッピーディスクおよび、ディスクドライブは、ごみやほこりを嫌います。フロッピーディスクが挿入されたままですと、ほこりが入りやすくなりますので、ご使用後は、ディスクドライブからフロッピーディスクを抜きましょう。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は必ず電源を切ってください。  
長時間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

※この製品は、電気用品安全法に定める技術基準に適合しています。

## ごあいさつ

このたびは、ヤマハ学校用ハーモニーキーボードSHK-1000Ⅱをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。学校用ハーモニーキーボードSHK-1000Ⅱは、授業で児童・生徒が主体的に活用できる機能を内蔵した、学校向け教育用キーボードです。ご使用にあたりましては、この取扱説明書を一読のうえ、SHK-1000Ⅱの機能を充分にご活用いただき、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになった後は大切に保管してください。分からないことや不具合が生じたとき、きっとお役に立ちます。

### SHK-1000Ⅱの特長

#### ● ハーモニー感覚の会得、学習に効果的なハーモニー機能を内蔵。

- ・ ボタンひとつで各調の基本的なハーモニー(和音)[I(主和音), IV(下屬和音), V(属和音), V7(属七和音)]を発音することができます。また、純正律に近いチューニングに切り替わるハーモニーモードにより、美しく透明感のある響きを感じることができます。

#### ● 総合的な音楽表現の学習を手助けする、充実した機能。

- ・ ヤマハ独自のAWM2音源およびXGフォーマットにより、美しく豊かな音色を実現しました。
- ・ 指先のニュアンスを音で表すタッチレスポンスや、音色に様々な変化を加えるエディット機能が、音楽表現の幅を広げます。
- ・ テンポキープに大切なメトロノームや、楽しい10種類のリズムを内蔵。リズムに合わせた楽しいアンサンブルができます。
- ・ フロッピーディスクドライブを搭載。フロッピーディスクを使って演奏を録音/再生できます。また、指導用オルガンSEシリーズ同様、ミュージックデータの活用も自在。自動伴奏などに役立ちます。

#### ● 操作や持ち運びが簡単、児童・生徒が主体的に扱えます。

- ・ 原則的に1スイッチ・1機能。簡単な操作ですぐに使うことができます。
- ・ 児童・生徒が簡単に持ち運べるよう、軽量化を施しました。
- ・ 最大5段まで積み重ねることができ、収納性に優れています。

#### 付属品の確認

梱包箱の中には、以下の付属品が入っています。すべての付属品が揃っていることを確認してください。

- |   |              |
|---|--------------|
| ・ SHK-1000Ⅱ活用曲集<br>『あわせよう！美しいひびきで』        | ・ 取扱説明書(本書)  |
| ・ フロッピーディスク<br>『あわせよう！美しいひびきで』アンサンブル編ディスク | ・ かんたんそうさガイド |
| ・ 譜面立て                                    | ・ 保証書        |



・ 付属品が不足しているときは、お買い求めになったお店へご連絡ください。

# 目次

<b>演奏の準備</b> .....	<b>6</b>
電源の準備 .....	6
ヘッドホン端子について .....	6
ライン出力端子について .....	6
サステインペダル端子について .....	6
MIDI端子、TO HOST端子について .....	6
電源の入/切 .....	7
音量を調節する .....	7
鍵盤音量を調節する .....	7
譜面立ての取り付け、収納方法 .....	7
<b>各部の名称</b> .....	<b>8, 9</b>
<b>操作と機能</b> .....	<b>10</b>
音色を選んで演奏する .....	<b>10</b>
パネル音色 .....	10
GM音色 .....	10
打楽器音色 .....	11
効果を付けて演奏する .....	<b>12</b>
アタックを変える .....	12
ブリリアンス(明るさ)を変える .....	12
サステインを変える .....	12
音域を変える .....	12
ビブラートをかける .....	13
リバースをかける .....	13
タッチレスポンスをつける .....	14
移調する .....	14
チューニングを変える .....	14
メトロノームを使って演奏する .....	<b>15</b>
再生/停止する .....	15
モードを変える .....	15
拍子を変える .....	16
テンポを変える .....	16
リズムを鳴らしながら演奏する .....	<b>17</b>
リズムを選んで鳴らす .....	17
音量を変える .....	17
テンポを変える .....	17
イントロ/エンディングを使う .....	18
ハーモニー .....	<b>19</b>
ハーモニーを鳴らしてみる .....	19
音量を変える .....	19
ハーモニーの音色を変える .....	19
ハーモニーを持続させる .....	19
ハーモニーの調を変える .....	20
ハーモニーモードで演奏する .....	22

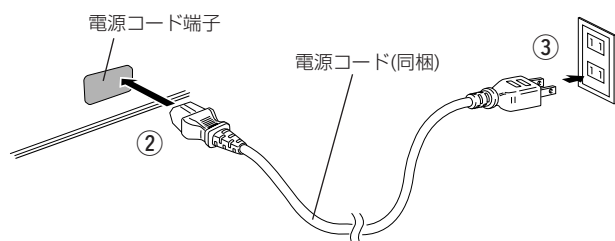
<b>ディスクレコーダーの操作</b> .....	<b>23</b>
フロッピーディスクについて .....	<b>23</b>
フロッピーディスクの規格 .....	23
フロッピーディスクの取り扱い .....	23
録音内容の保護 .....	23
フロッピーディスクの出し入れ .....	23
フォーマットのしかた .....	<b>24</b>
新しいフロッピーディスクのフォーマット .....	24
フロッピーディスクの再フォーマット .....	25
再生のしかた .....	<b>26</b>
曲を選んで再生する .....	26
早送り/早戻し/一時停止をする .....	26
パートを選んで再生する .....	27
音量を変える .....	27
テンポを変える .....	28
繰り返し再生する .....	28
録音のしかた .....	<b>29</b>
曲を最初から録音する .....	29
曲の途中から録音する(パンチイン録音) .....	30
MIDI機器から録音する .....	31
演奏を消去する .....	32
<b>MIDIについて</b> .....	<b>33</b>
<b>MIDIって?</b> .....	<b>33</b>
<b>接続方法について</b> .....	<b>33</b>
<b>MIDIの設定</b> .....	<b>34</b>
MIDI送信チャンネルの設定 .....	34
MIDIクロックの設定 .....	34
MIDIコントロールの設定 .....	35
ブレスコントロール受信の設定 .....	35
鍵盤トランスポーズの設定 .....	36
ハーモニーの自動調選択の設定 .....	36
ローカルコントロールの設定 .....	37
シーケンサーモードの設定 .....	37
<b>エラーメッセージについて</b> .....	<b>38</b>
<b>故障かな?と思ったら</b> .....	<b>38</b>
<b>リスト</b> .....	<b>39</b>
GM楽器リスト .....	39
打楽器MIDI OUTノートナンバー/代替音色リスト .....	39
<b>MIDIインプリメンテーションチャート</b> .....	<b>40</b>
<b>仕様</b> .....	<b>42</b>



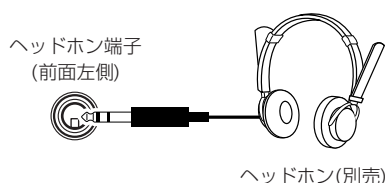
電源を入れる前に必要な準備について説明します。

## 電源の準備

- ① 本体の電源スイッチが切れていることを確認してください。
- ② 電源コードのプラグをリアパネルの電源コード端子にさし込みます。
  - ！ ・ ご使用の際は、必ず同梱の電源コードをお使いください。他の電源コードの使用は故障、発熱、発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、充分にご注意ください。
- ③ 電源コードのプラグを家庭用(AC100V)コンセントにさし込みます。
  - ！ ・ 使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。



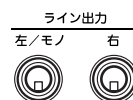
## ヘッドホン端子について



ヘッドホン端子にヘッドホンYHE-90S(別売)を接続すると、ヘッドホンでSHK-1000Ⅱの演奏を聞くことができます。そのとき、SHK-1000Ⅱのスピーカーから音は出なくなります。

- ⊘ ・ 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

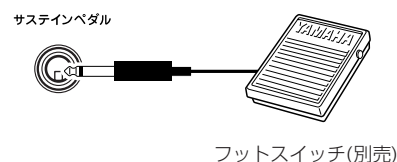
## ライン出力端子について



ライン出力端子とキーボードアンプ、ステレオ、ミキシングコンソール、テープレコーダーなどの入力端子を接続すれば、SHK-1000Ⅱの演奏を外部機器で鳴らすことができます。モノラルで出力する場合は、**左/モノ**へ接続します。

- ！ ・ 外部機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切ったあとで接続してください。感電、または機器損傷のおそれがあります。また、再生するスピーカーなどの損傷を防ぐため、外部機器の音量を最小にしてから接続してください。

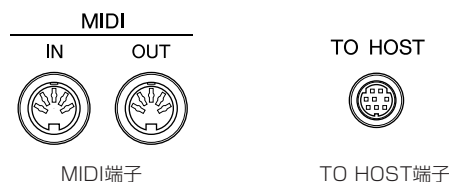
## サステインペダル端子について



サステインとは、弾いた音に余韻を付け加える機能です。サステインペダル端子にフットスイッチFC4またはFC5(別売)を接続すると、サステインの操作をフットスイッチで行なえます。

- ！ ・ サステインペダル端子にフットスイッチを接続してから電源を入れてください。また、フットスイッチを踏みながら電源を入れないでください。踏みながら電源を入れると、サステインのオン/オフが逆になります。

## MIDI端子、TO HOST端子について



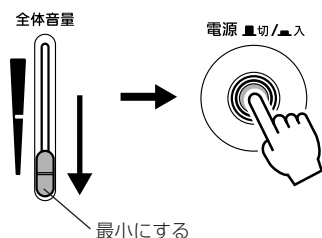
MIDIケーブルやシリアルケーブルを使って、外部MIDI機器と接続することにより、MIDIデータを送受信することができます。詳しくは、33ページをご覧ください。

※「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

## 電源の入/切

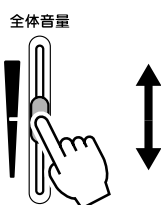
電源を入れるときは、必ず[全体音量]レバーが最小になっていることを確認してください。

[電源]ボタンを押すと電源が入ります。現在選ばれている音色やリズム、ハーモニーのランプが点灯します。ディスプレイには現在のテンポ設定値が表示されます。



## 音量を調節する

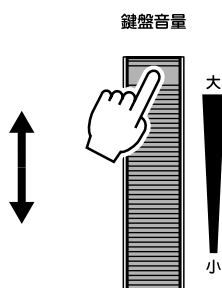
鍵盤を弾きながら[全体音量]レバーを動かして、好みの音量にします。レバーは上にスライドさせると音量が大きくなり、下にスライドさせると小さくなります。



- ・ [全体音量]レバーが上がっていても、[鍵盤音量]ホイールが上がっていないと、鍵盤の音は鳴りません。
- ・ [全体音量]レバーが上がり過ぎていると、音色によってはピリツキ音が出ることがあります。その場合は、レバーを下げ音量を下げてください。

## 鍵盤音量を調節する

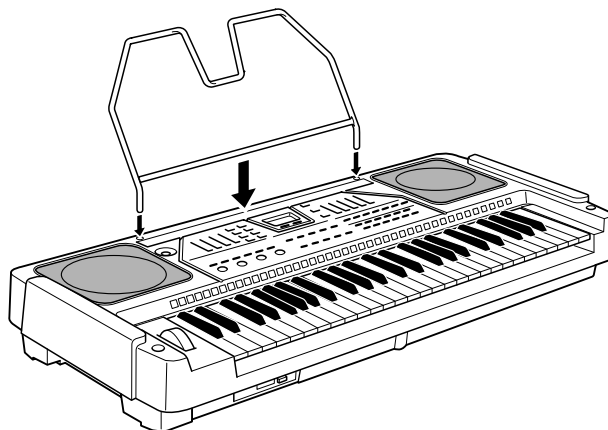
[鍵盤音量]ホイールを動かすと、鍵盤で弾いている音だけに対して、音量調節ができます。奥に動かすと音量が大きくなり、手前に動かすと小さくなります。



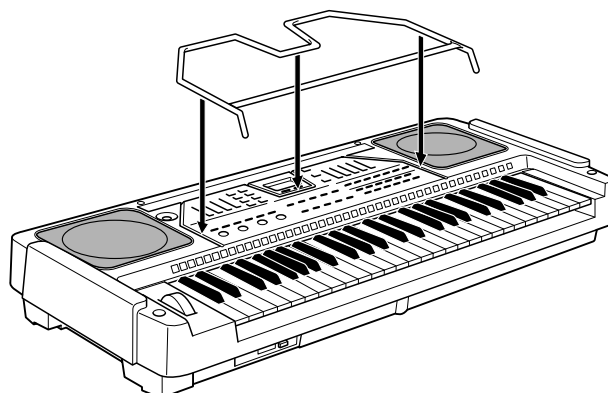
- ・ [全体音量]レバーが上がっていないと、[鍵盤音量]ホイールを上げても鍵盤の音は鳴りません。

## 譜面立ての取り付け、収納方法

- 取り付け .....  
譜面立ての下部分を、SHK-1000 II のパネル上奥の穴にさし込みます。

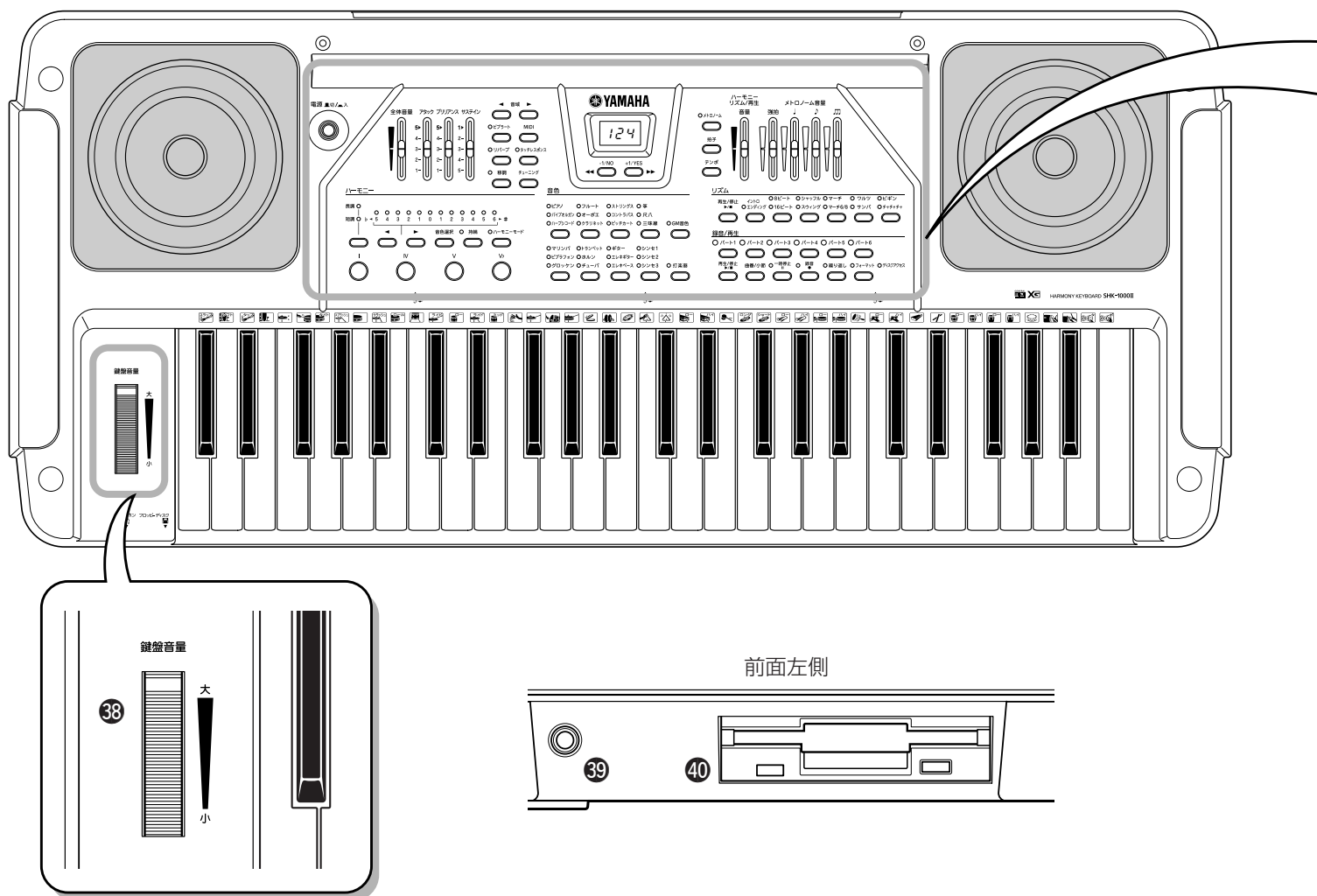


- 収納方法 .....  
図のように、譜面台をSHK-1000 II フロントパネルに置いて収納します。



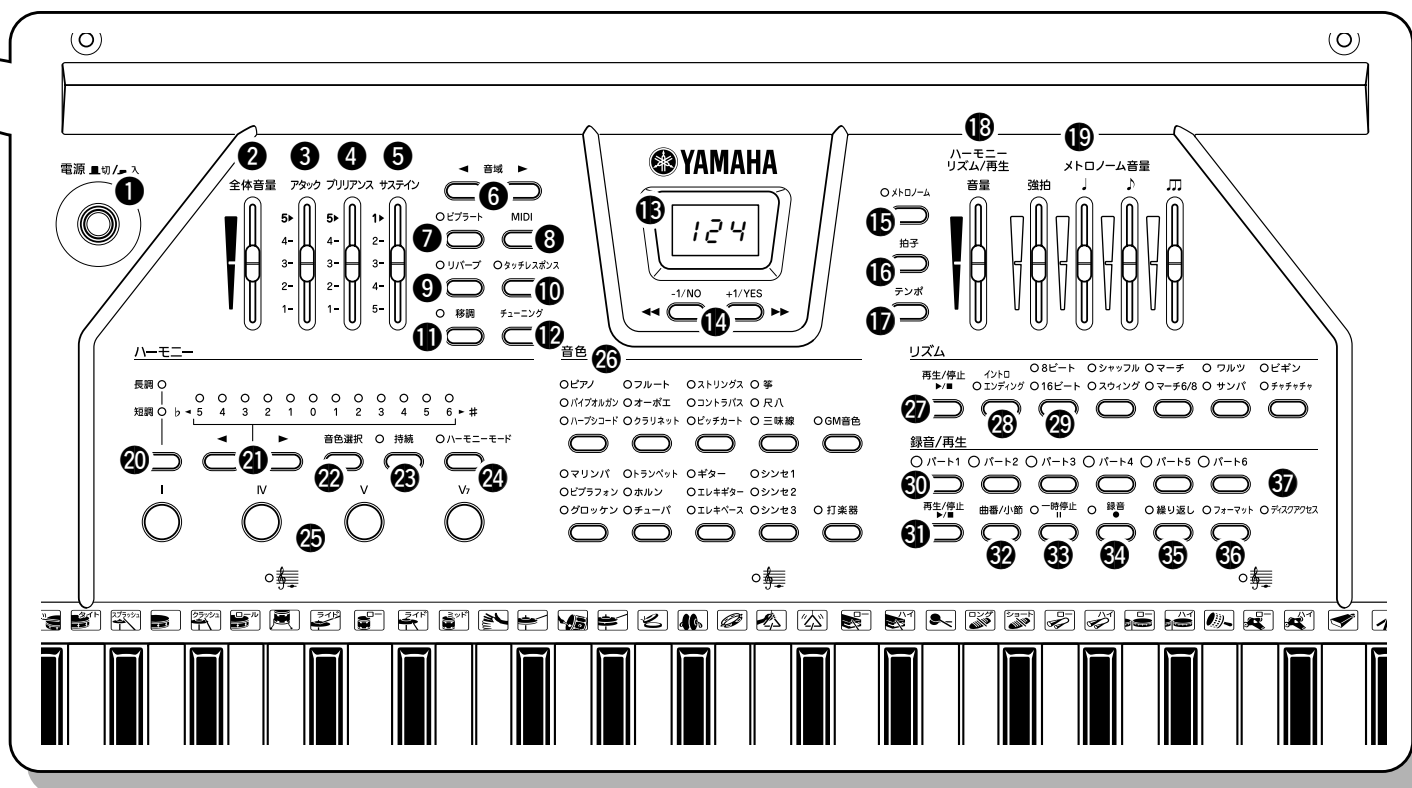
# 各部の名称

## ■ フロントパネル

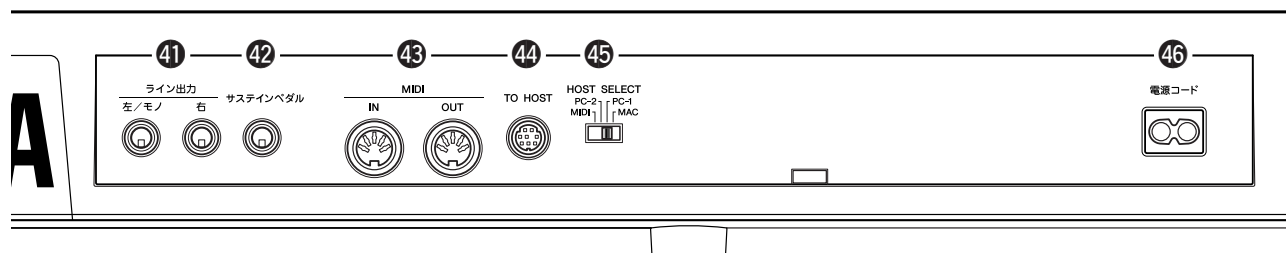


① [電源] ボタン	7	②① ハーモニー調選択[◀]/[▶] ボタン	20
② [全体音量] レバー	7	②② [ハーモニー音色選択] ボタン	19
③ [アタック] レバー	12	②③ [持続] ボタン	19
④ [ブリリアンス] レバー	12	②④ [ハーモニーモード] ボタン	22
⑤ [サステイン] レバー	12	②⑤ [ハーモニー] ボタン	19
⑥ 音域[◀]/[▶] ボタン	12	②⑥ [音色選択] ボタン	10
⑦ [ビブラート] ボタン	13	②⑦ [リズム再生/停止] ボタン	17
⑧ [MIDI] ボタン	34	②⑧ [イントロ/エンディング] ボタン	18
⑨ [リバーブ] ボタン	13	②⑨ [リズム選択] ボタン	17
⑩ [タッチレスポンス] ボタン	14	③⑩ [パート選択] ボタン	27
⑪ [移調] ボタン	14	③① [再生/停止] ボタン	26
⑫ [チューニング] ボタン	14	③② [曲番/小節] ボタン	28
⑬ ディスプレイ		③③ [一時停止] ボタン	27
⑭ [-1/NO/◀◀]/[+1/YES/▶▶] ボタン		③④ [録音] ボタン	29, 30
⑮ [メトロノーム] ボタン	15	③⑤ [繰り返し] ボタン	28
⑯ [拍子] ボタン	16	③⑥ [フォーマット] ボタン	24, 25
⑰ [テンポ] ボタン	16, 17, 28	③⑦ ディスクアクセスランプ	23
⑱ [ハーモニー/リズム/再生音量] レバー	15, 17, 19, 27	③⑧ [鍵盤音量] ホイール	7
⑲ [メトロノーム音量] レバー	15	③⑨ ヘッドホン端子	6
⑳ [長調/短調切り替え] ボタン	20	④⑩ フロッピーディスクドライブ	23





## ■ リアパネル



- |   |                                      |
|---|--------------------------------------|
| 41 ライン出力端子 ..... 6                                  | 44 TO HOST(トゥー・ホスト)端子 ..... 6, 33    |
| 42 サステインペダル端子 ..... 6                               | 45 HOST SELECT(ホストセレクト)スイッチ ..... 33 |
| 43 MIDI IN/MIDI OUT<br>(ミディイン/ミディアウト)端子 ..... 6, 33 | 46 電源コード端子 ..... 6                   |

## 音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によってはたいへん気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。

静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンをご使用になるのもひとつの方法です。

音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

- ヘッドホンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

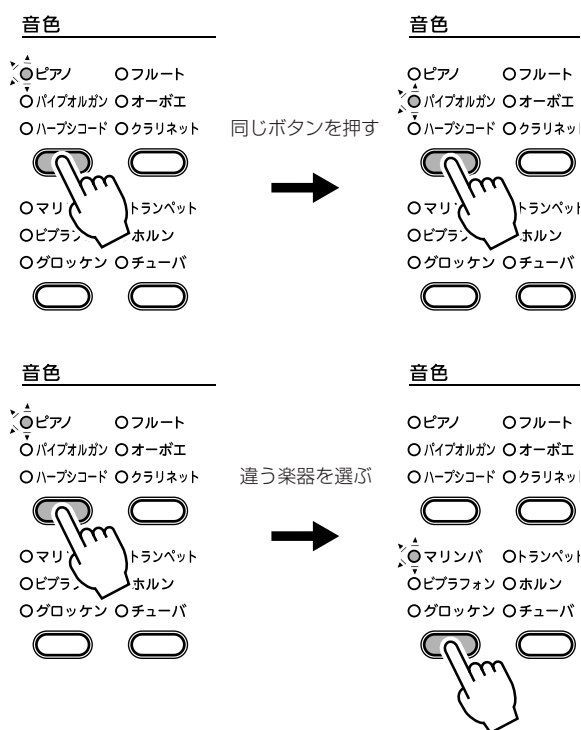
ここでは、SHK-1000Ⅱの基本的な操作を説明します。準備ができれば電源を入れて演奏してみましょう。

## 音色を選んで演奏する

SHK-1000Ⅱには、バラエティに富んださまざまな音色が内蔵されています。いろいろな音色を選んで演奏してみましょう。

### パネル音色

鍵盤を弾くと、ランプが点灯している楽器の音色で鳴ります。  
[音色選択]ボタンを押すと、ランプの点灯位置が移動し音色を切り替えることができます。

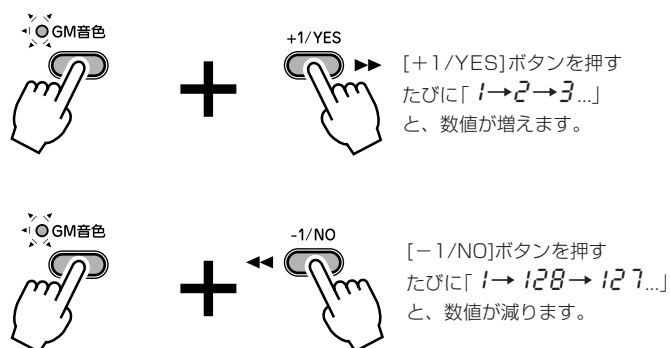


メモ：一番下のランプが点灯しているとき、同じボタンを押すと一番上の楽器に戻ります。

### GM音色

GM(ジェネラルミディ)とは、メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた音色配列の世界統一規格です。SHK-1000ⅡはGM規格に準じた音色、打楽器、効果音を内蔵しています。

[GM音色]ボタンを押しながら[-1/NO]/[+1/YES]ボタンを押して楽器を選びます。GM音色ランプが点灯し、ディスプレイには現在選ばれている音色の楽器番号が表示されます。楽器リストは39ページをご覧ください。



- メモ：
- [GM音色]ボタンを押すと、自動的に音域は「中」、ピブラートは「OFF」に切り替わります。
  - [GM音色]ボタンを押しながら、[-1/NO]ボタンと[+1/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定値の「1」に戻ります。
  - ディスプレイは、選ばれた楽器番号を表示した後、テンポまたは曲番表示に切り替わります。
  - [GM音色]ボタンを押しながら、音色選択の各ボタンを押していくと、「1」、「17」、「33」、「49」、「65」、「81」、「97」、「113」とGM音色の楽器番号が表示されます。数の多い楽器を選ぶのに便利です。

### パネル楽器リスト

楽器番号	音色名	楽器番号	音色名	楽器番号	音色名	楽器番号	音色名
1	ピアノ	4	フルート	7	ストリングス	10	箏(こと)
2	パイプオルガン	5	オーボエ	8	コントラバス	11	尺八
3	ハーブシコード	6	クラリネット	9	ピッチカート	12	三味線
13	マリンバ	16	トランペット	19	ギター	22	シンセ1
14	ビブラフォン	17	ホルン	20	エレキギター	23	シンセ2
15	グロッケン	18	チューバ	21	エレキベース	24	シンセ3

## 打楽器音色

SHK-1000 IIは、ドラムや和太鼓など打楽器の音を出すことができます。

[打楽器] ボタンを押すと、打楽器ランプが点灯し鍵盤それぞれ違う打楽器の音を出すことができます。下図の打楽器リストを参考に、鍵盤を押して打楽器の音を出してみましょう。



- ・「トライアングル オープン」の音を出しながら「トライアングル ミュート」の音を出すと、トライアングル オープンの音は止まります。
- ・「ハイハット オープン」の音を出しながら「ハイハット クローズ」や「ハイハット ペダル」の音を出すと、ハイハット オープンの音は止まります。

## 音色

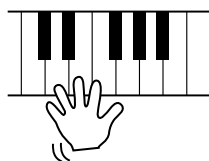
○ピアノ ○フルート ○ストリングス ○箏  
○パイプオルガン ○オーボエ ○コントラバス ○尺八  
○ハーブシコード ○クラリネット ○ピッチカート ○三味線 ○GM音色



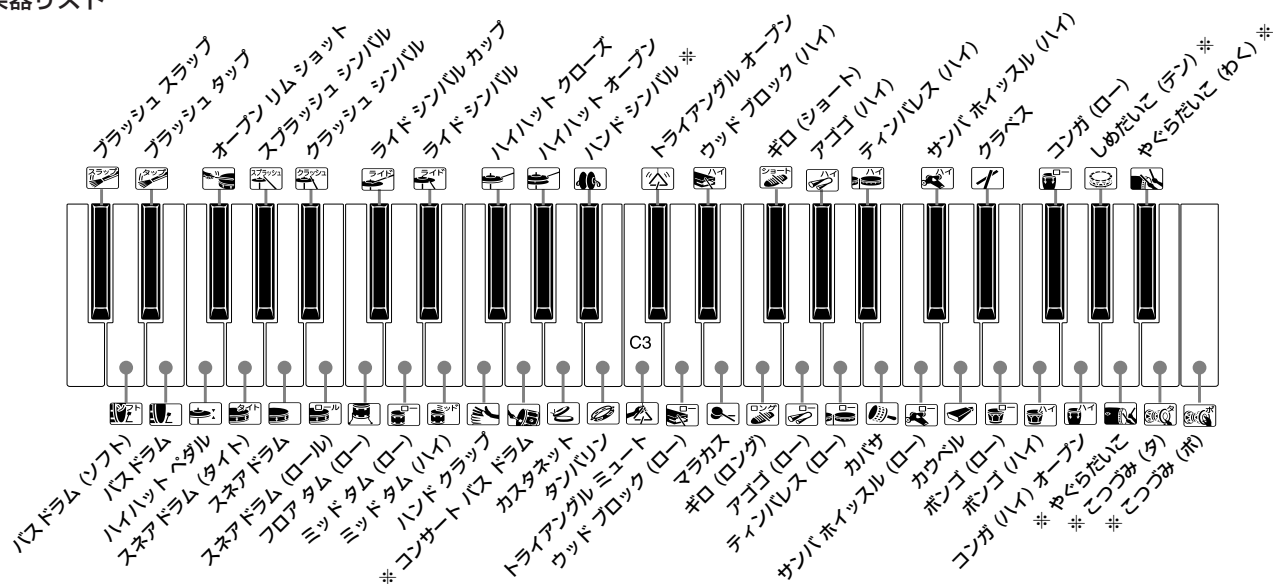
○マリンバ ○トランペット ○ギター ○シンセ1  
○ビブラフォン ○ホルン ○エレキギター ○シンセ2  
○グロッケン ○チューバ ○エレキベース ○シンセ3



打楽器



## 打楽器リスト



音色は SHK 独自の配列になっています。(録音をするときは、GM 配列に変換され録音されます)

※の付いた音色は、SHK 独自の音色です。この音で録音しても外部 MIDI 機器では再生できません。

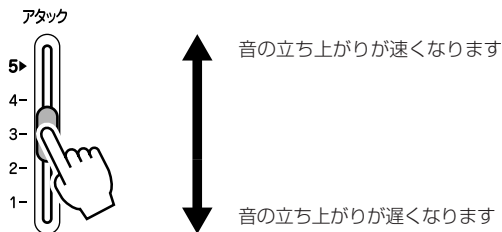
## 効果を付けて演奏する

SHK-1000Ⅱには、音色を変化させる様々な機能が内蔵されています。

### アタックを変える

鍵盤を押したときの「音の立ち上がりの速さ」を調節します。

鍵盤を弾きながら、[アタック]レバーを動かします。



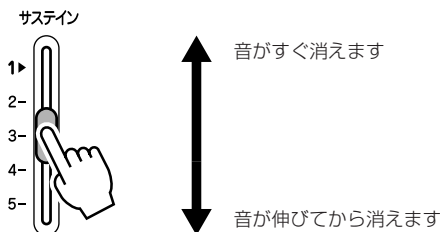
**メモ** ・アタックを変更した後に違う音色を選ぶか、もしくは電源をオフにしたあと、もう一度電源を入れた場合、アタックの設定は初期設定値の「5」にリセットされます。変更した音色でアタックを変更するときは、もう一度[アタック]レバーを動かしてください。

**!** ・打楽器音色および[ハーモニー]ボタンには、アタックは機能しません。

### サステインを変える

鍵盤から指を離してから音が消えるまでの時間を調節します。

鍵盤を弾きながら、[サステイン]レバーを動かします。



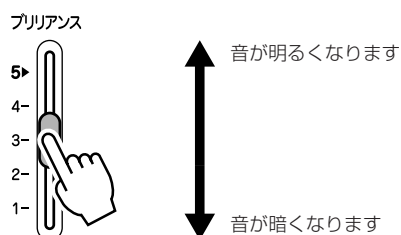
**メモ** ・サステインを変更した後に違う音色を選ぶか、もしくは電源をオフにしたあと、もう一度電源を入れた場合、サステインの設定は初期設定値の「1」にリセットされます。変更した音色でサステインを変更するときは、もう一度[サステイン]レバーを動かしてください。

**!** ・打楽器音色および[ハーモニー]ボタンには、サステインは機能しません。

### ブリリアンス(明るさ)を変える

音の明るさを調節します。

鍵盤を弾きながら、[ブリリアンス]レバーを動かします。



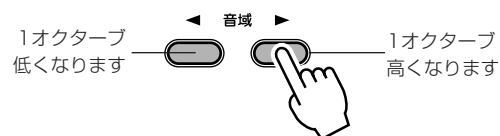
**メモ** ・ブリリアンスを変更した後に違う音色を選ぶか、もしくは電源をオフにしたあと、もう一度電源を入れた場合、ブリリアンスの設定は初期設定値の「5」にリセットされます。変更した音色でブリリアンスを変更するときは、もう一度[ブリリアンス]レバーを動かしてください。

**!** ・[ハーモニー]ボタンには、ブリリアンスは機能しません。

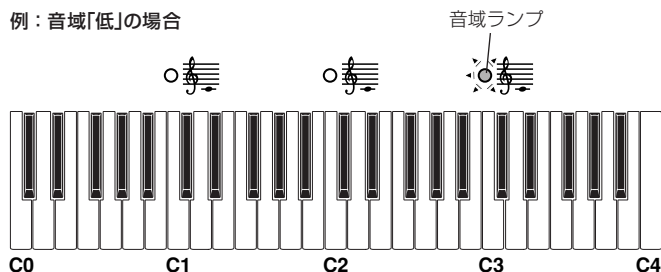
### 音域を変える

鍵盤で演奏できる音域を変えます。

音域[◀]/[▶]ボタンを押します。音域ランプの点灯位置が変わり、点灯している音域ランプの鍵盤がC3に変わります(音程が1オクターブずつ変わります)。



例：音域「低」の場合



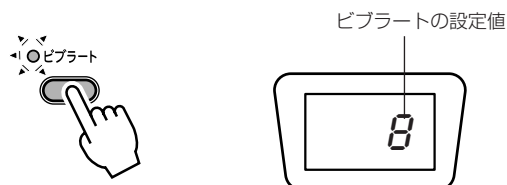
**メモ** ・音域「低」ではC0～C4、「中」ではC1～C5、「高」ではC2～C6までの音域で演奏することができます。  
・音色を切り替えると、その音色の音域設定に自動的に切り替わります。

**!** ・打楽器音色および[ハーモニー]ボタンには、音域は機能しません。

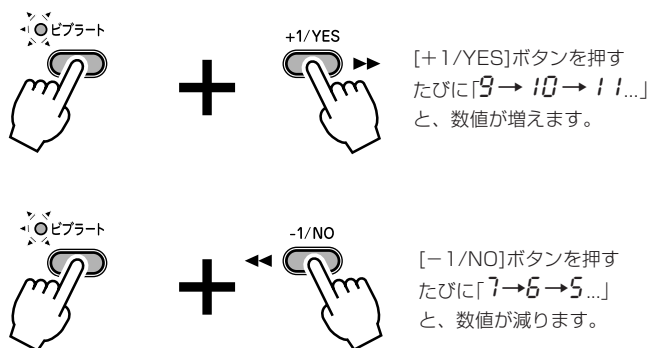
## ビブラートをかける

音に揺れ(ビブラート)をかけます。

1. [ビブラート]ボタンを押すと、ビブラートランプが点灯し鍵盤で弾いた音にビブラートがかかります。ボタンを押している間、ディスプレイにはビブラートの設定値が表示されます。



2. [ビブラート]ボタンを押しながら、[-1/NO]/[+1/YES]ボタンを押すと、1～15の間でビブラートのかかり具合を調節できます。



- メモ**
- ・ 値が大きいほど、ビブラートは深くかかります。
  - ・ [ビブラート]ボタンを押しながら、[-1/NO]ボタンと[+1/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定値の「8」に戻ります。
  - ・ 音色を切り替えると、その音色のビブラート設定に自動的に切り替わります。

- !**
- ・ 打楽器音色および[ハーモニー]ボタンには、ビブラートはかかりません。

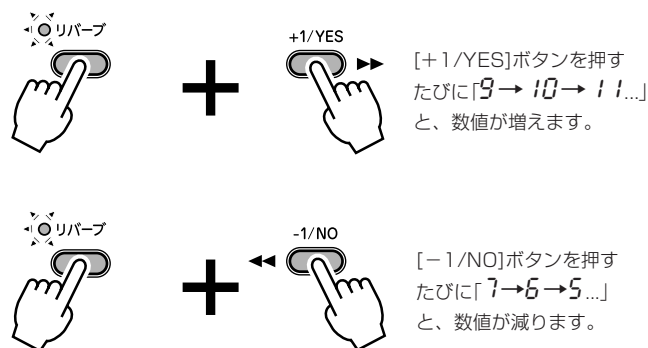
## リバーブをかける

ホールで聞いているような残響がかかります。

1. [リバーブ]ボタンを押すと、リバーブランプが点灯しリバーブがかかります。ボタンを押している間、ディスプレイにはリバーブの設定値が表示されます。



2. [リバーブ]ボタンを押しながら、[-1/NO]/[+1/YES]ボタンを押すと、1～15の間でリバーブのかかり具合を調節できます。



- メモ**
- ・ 値が大きいほど、リバーブは深くかかります。
  - ・ [リバーブ]ボタンを押しながら、[-1/NO]ボタンと[+1/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定値の「8」に戻ります。

- !**
- ・ [ハーモニー]ボタンには、リバーブはかかりません。

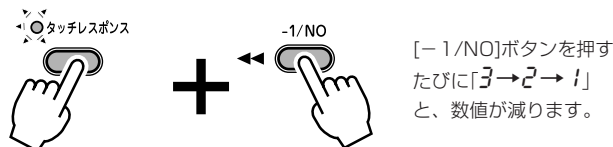
## タッチレスポンスをつける

タッチレスポンスをオンにすると、鍵盤を弾く強さによって、音の強弱を表現できます。タッチレスポンスがオフの状態では、鍵盤を弾く強さを変えても音量は一定です。

1. [タッチレスポンス]ボタンを押すと、タッチレスポンスランプが点灯しタッチレスポンスがかかります。ボタンを押している間、ディスプレイにはタッチレスポンスの設定値が表示されます。



2. [タッチレスポンス]ボタンを押しながら、[−1/NO]/[+1/YES]ボタンを押すと、1〜3の間でタッチレスポンスの設定値を調節できます。



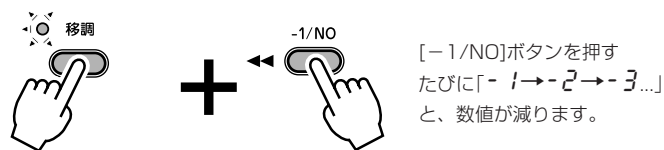
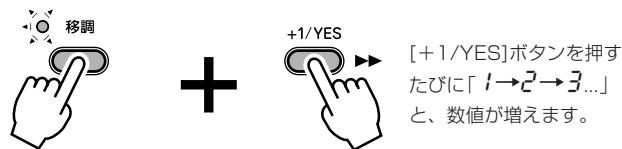
- ・タッチレスポンスの効き具合は、1 (SOFT)、2 (MEDIUM)、3 (HARD) となっており、設定値を大きくするほど鍵盤を弾く強弱でより細かい音量表現ができます。
- ・[タッチレスポンス]ボタンを押しながら、[−1/NO]ボタンと[+1/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定値の「2」に戻ります。
- ・音色を切り替えると、その音色のタッチレスポンスの設定に自動的に切り替わります。

❗ ・[ハーモニー]ボタンには、タッチレスポンスはかかりません。

## 移調する

鍵盤の演奏を、半音単位で移調(トランスポーズ)することができます。

[移調]ボタンを押している間、ディスプレイには移調の設定値が表示されます。[移調]ボタンを押しながら、[−1/NO]/[+1/YES]ボタンを押すと移調ランプが点灯し、−12〜12 (半音単位)の間で移調することができます。



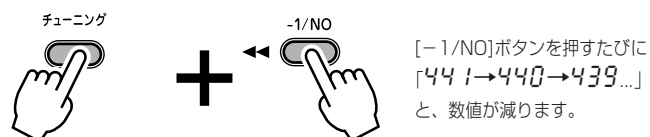
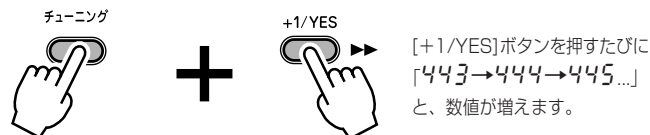
- ・「−12」で1オクターブ下、「12」で1オクターブ上の音が鳴ります。
- ・[移調]ボタンを押しながら、[−1/NO]ボタンと[+1/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定値の「0」に戻ります。

❗ ・打楽器音色には、移調は設定できません。

## チューニングを変える

音程の微調整をします。

[チューニング]ボタンを押している間、ディスプレイにはチューニングの設定値が表示されます。[チューニング]ボタンを押しながら、[−1/NO]/[+1/YES]ボタンを押すと、基準ピッチ(A3)を438Hz〜445Hzの間で1Hz単位で設定することができます。



- ・電源を入れたとき、チューニングは「442」に設定されています。
- ・[チューニング]ボタンを押しながら、[−1/NO]ボタンと[+1/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定値の「442」に戻ります。

❗ ・打楽器音色には、チューニングは設定できません。



## メトロノームを使って演奏する

SHK-1000 IIには、メトロノーム機能が内蔵されています。

### メトロノームの説明

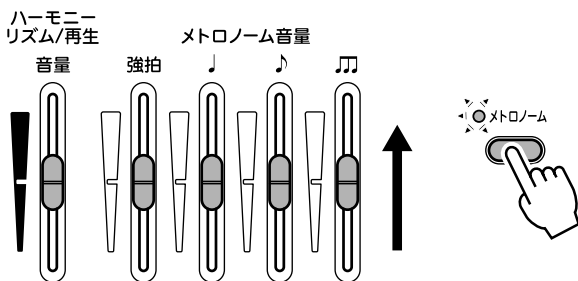
各メトロノーム音量を上げると、レバーに書かれた拍が鳴ります。



### 再生/停止する

メトロノームのスタート/ストップを操作します。

[ハーモニー/リズム/再生音量]レバーと[メトロノーム音量]レバーを上げてから[メトロノーム]ボタンを押すと、メトロノームランプが点灯しメトロノームが鳴ります。もう一度押すと止まります。

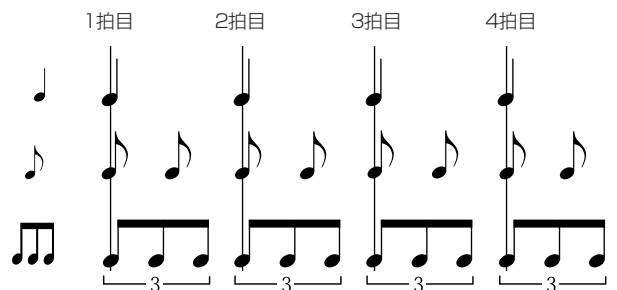


- メモ**
- ・リズム再生時に[メトロノーム]ボタンを押すと、リズムに合わせてメトロノームが鳴ります。
  - ・[ハーモニー/リズム/再生音量]レバーは、メトロノーム全体の音量を調節します。[メトロノーム音量]レバーは、レバーの拍の音量を個別に調節します。

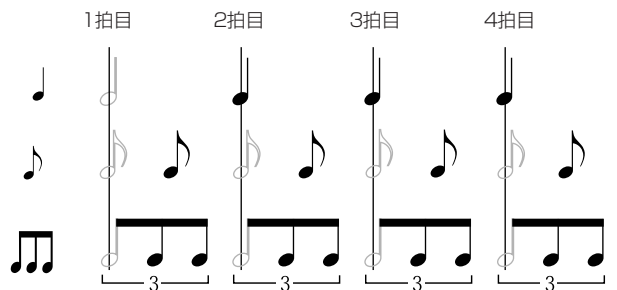
### モードを変える

メトロノームの鳴り方を変更します。

[メトロノーム]ボタンを押しながら[-1/NO]ボタンを押すと、ディスプレイには「ALL」と表示され、すべての拍が鳴ります。



[メトロノーム]ボタンを押しながら[+1/YES]ボタンを押すと、ディスプレイには「ALL」と表示され、白くなっている拍は鳴りません。

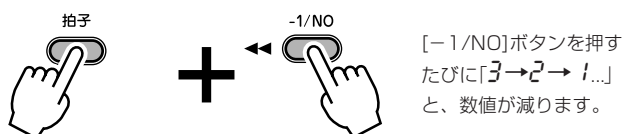


- メモ**
- ・強拍はどちらのモードでも鳴ります。
  - ・電源を入れたとき、モードは「ALL」に設定されています。

## 拍子を変える

メトロノームの拍子(3拍子、4拍子など)を変更します。

[拍子]ボタンを押しながら、[-1/NO]/[+1/YES]ボタンを押すと、0~8の間で拍子を変更することができます。ボタンを押している間、ディスプレイには拍子の設定値が表示されます。



- ✖️
- ・設定値が「0」のとき、強拍は鳴りません。
  - ・[拍子]ボタンを押しながら、[-1/NO]ボタンと[+1/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定値の「4」に戻ります。

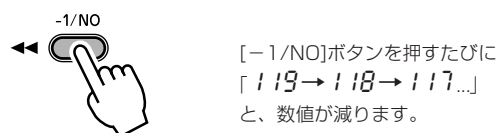
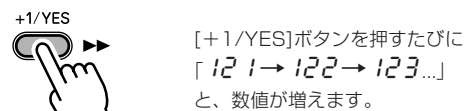
## テンポを変える

メトロノームのテンポを変更します。

1. [テンポ]ボタンを押すと、ディスプレイには現在のテンポ値が表示されます。



2. [-1/NO]/[+1/YES]ボタンを押すと、♩=32~280の間でテンポを変更することができます。



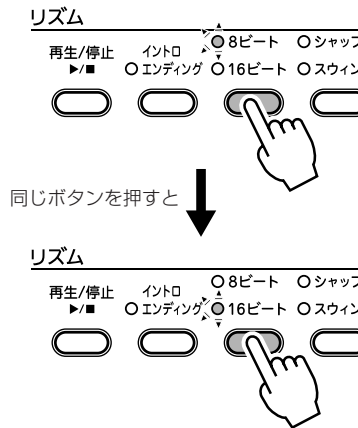
- ✖️
- ・フロッピーディスクを挿入したりリズムを選ぶと、テンポは自動的に切り替わります。
  - ・[-1/NO]ボタンと[+1/YES]ボタンを同時に押すと、リズムや曲の初期設定値に戻ります。

## リズムを鳴らしながら演奏する

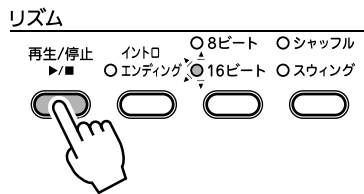
SHK-1000 IIには、バラエティ豊かな10種類のリズムが内蔵されています。

### リズムを選んで鳴らす

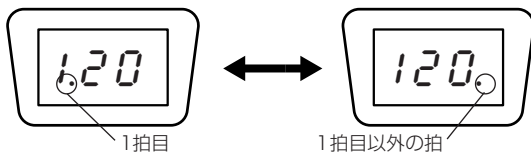
1. 鳴らしたいリズムのボタンを押します。1回押すと上段のリズムが選ばれ、もう一度押すと下段のリズムが選ばれます。



2. [リズム再生/停止]ボタンを押すとリズムが鳴ります。



拍はディスプレイのドットで表示されます。1拍目は左側のドット、その他の拍は右側のドットが点灯します。



もう一度押すとリズムが止まります。

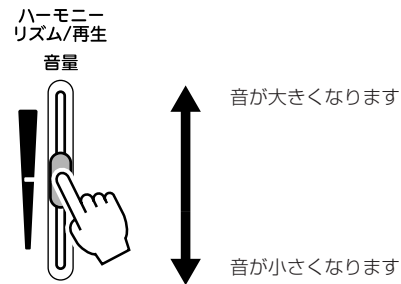
- ・ 下段のランプが点灯している状態で同じボタンを押すと、上段のリズムが選ばれます。
- ・ [メトロノーム]ボタンを押すと、リズムのテンポと拍に合わせてメトロノームが鳴ります。
- ・ リズムは1小節単位で鳴ります。小節の途中で違うリズムのボタンを押すと、次の小節の頭から切り替わります。(その間、新しく押したリズムのランプは点滅します。)

- ・ ハーモニーモードがオンになっていると、リズムのスタートができません。
- ・ フロッピーディスクが挿入されていると、リズムの選択はできません。

### 音量を変える

リズムの音量を変更します。

リズムの音量は、[ハーモニー/リズム/再生音量]レバーで変更します。



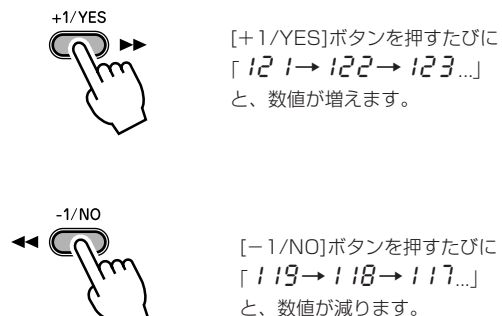
### テンポを変える

リズムのテンポを変更します。

1. [テンポ]ボタンを押すと、ディスプレイには現在のテンポ値が表示されます。



2. [-1/NO]/[+1/YES]ボタンを押すと、♩=32~280の間でテンポを変更することができます。



- ・ 違うリズムや曲を選ぶと、テンポは自動的に切り替わります。
- ・ [-1/NO]ボタンと[+1/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定値に戻ります。

### リズムリスト

リズム番号	リズム名	リズム番号	リズム名	リズム番号	リズム名	リズム番号	リズム名	リズム番号	リズム名
1	8ビート	3	シャッフル	5	マーチ	7	ワルツ	9	ビギン
2	16ビート	4	スウィング	6	マーチ6/8	8	サンバ	10	チャチャチャ

## イントロ/エンディングを使う

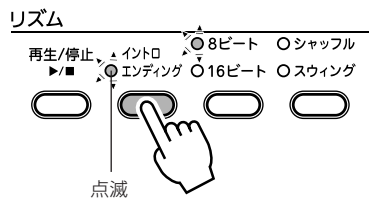
リズムの最初に「イントロ」を、リズムの最後に「エンディング」を加えることができます。

**イントロ** ..... リズムが始まる前に、数小節のイントロが付きます。(イントロの小節数は、下図参照)

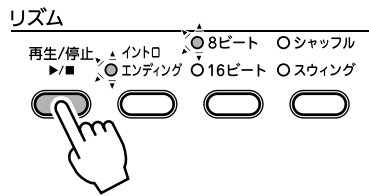
**エンディング** ..... リズムが終わるときに、数小節のエンディングがつきます。(エンディングの小節数は、下図参照)

### ■イントロを加えるとき .....

1. [リズム再生/停止]ボタンを押す前に[イントロ/エンディング]ボタンを押します。イントロ/エンディングランプが点滅し、イントロ待機状態になります。



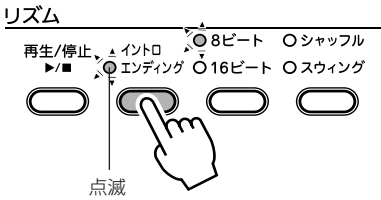
2. [リズム再生/停止]ボタンを押すとイントロが鳴った後で、続けてリズムがスタートします。



**メモ** ・一度設定したイントロを解除するときは、もう一度[イントロ/エンディング]ボタンを押します。

### ■エンディングを加えるとき .....

リズム再生中に[イントロ/エンディング]ボタンを押します。イントロ/エンディングランプが点滅し、次の小節からエンディングが始まります。エンディングが終了するとリズムがストップします。



**!** ・エンディング演奏中は、途中で止めることができません。

### 各リズムのイントロとエンディングの小節数

リズム番号	リズム名	イントロ	エンディング
1	8ビート	1小節	2小節
2	16ビート	2小節	2小節
3	シャッフル	2小節	2小節
4	スウィング	2小節	3小節
5	マーチ	2小節	2小節

リズム番号	リズム名	イントロ	エンディング
6	マーチ6/8	2小節	2小節
7	ワルツ	4小節	4小節
8	サンバ	2小節	2小節
9	ビギン	2小節	2小節
10	チャチャチャ	1小節	2小節

## ハーモニー

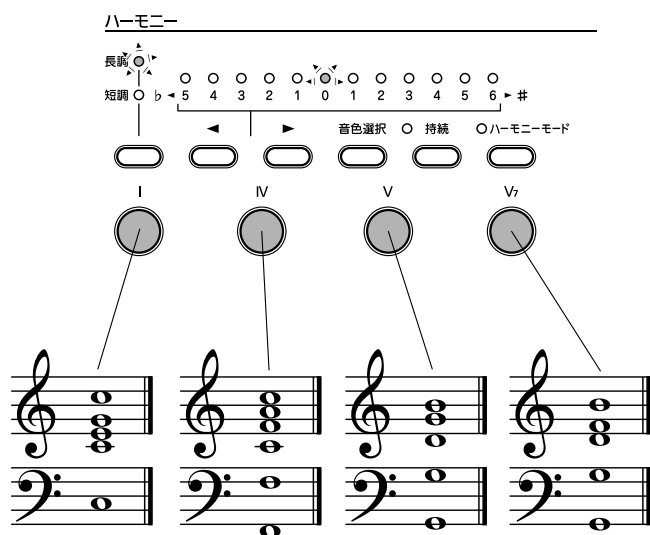
すべての調の基本的なハーモニー(和音)[I(主和音), IV(下属和音), V(属和音), V<sub>7</sub>(属七和音)]をボタン1つで鳴らすことができます。

また、純正律に近い音律に切り替わるハーモニーモードも内蔵し、ハーモニー感覚の学習、会得に効果的です。

### ハーモニーを鳴らしてみる

[ハーモニー]ボタン(I, IV, V, V<sub>7</sub>)を押すと、設定した調で押したボタンのハーモニー(和音)が鳴ります。

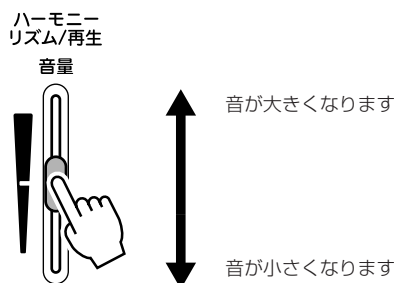
例：ハ長調の場合



- ・同時に2つのハーモニーを鳴らすことはできません。
- ・調によって、和音の配置が変わります。

### 音量を変える

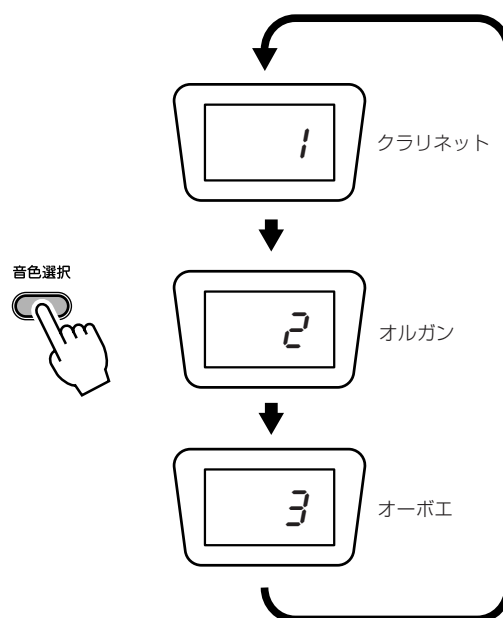
[ハーモニー]ボタンを押したときの音量は、[ハーモニー/リズム/再生音量]レバーで変更します。



### ハーモニーの音色を変える

[ハーモニー]ボタンを押したときに鳴る音色を、変更することができます。

[ハーモニー音色選択]ボタンを押すたびに、ハーモニーの音色が変わります。ボタンを押している間、ディスプレイには音色番号が表示されます。



### ハーモニーを持続させる

[ハーモニー]ボタンから指を離しても、ハーモニーが鳴り続けます。

1. [持続]ボタンを押すと、持続ランプが点灯します。



2. [ハーモニー]ボタンを押すと、押したハーモニーが持続して鳴り続けます。

3. もう一度[持続]ボタンを押すと、ハーモニーが止まります。

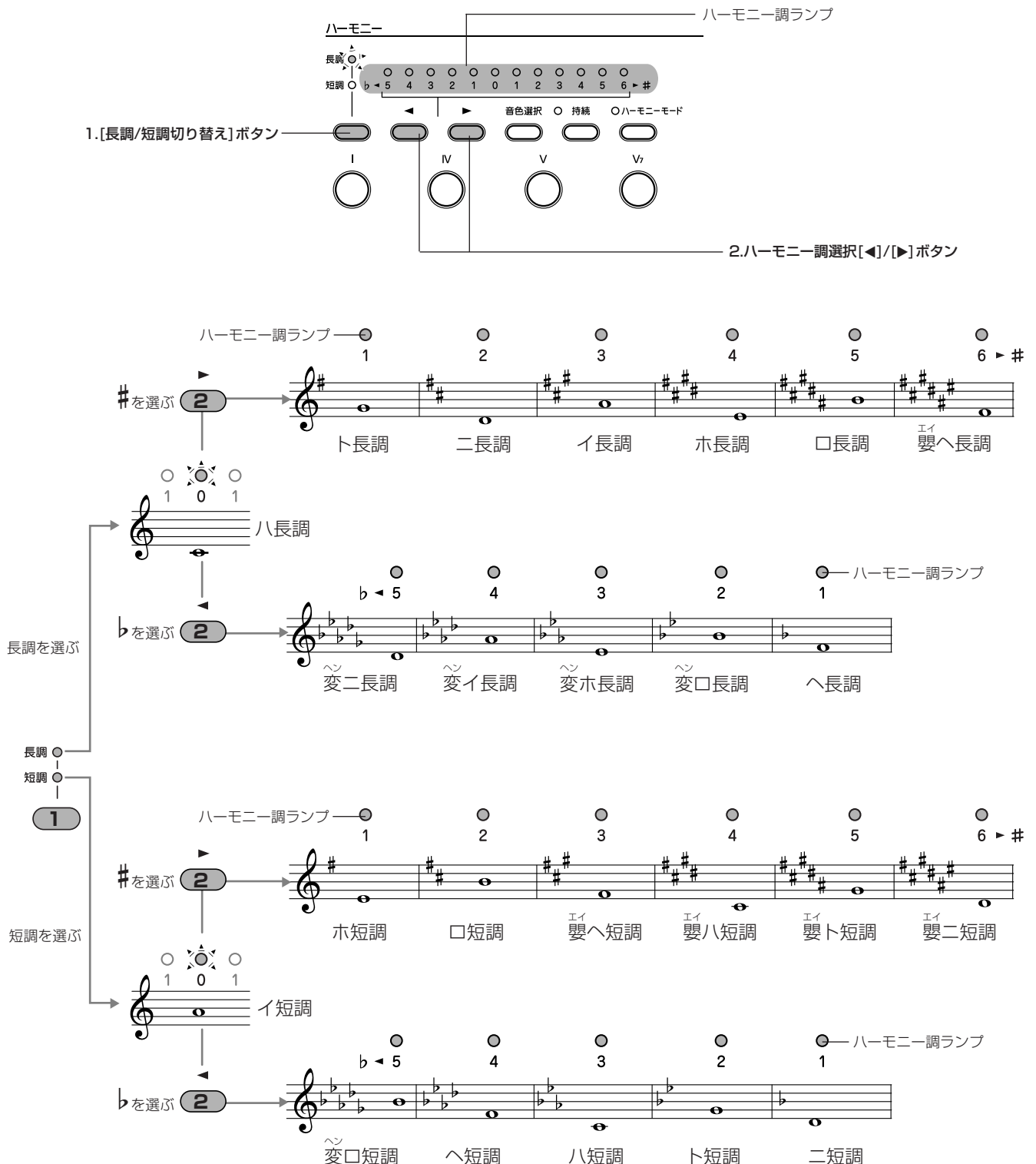
## ハーモニーの調を変える

「長調」と「短調」、「♭」と「♯」の数を変更し調を選択します。

1. [長調/短調切り替え] ボタンを押すと、長調/短調のランプが交互に点灯し、「長調」と「短調」が切り替わります。

2. ハーモニー調選択[◀]/[▶] ボタンを押すと、ハーモニー調ランプが「0」（ハ長調/イ短調）からボタンを押した方向へ進みます。ハーモニー調ランプが点灯している数が、「♭」と「♯」の数を表します。

**メモ** ハーモニー調選択[◀]ボタンと[▶]ボタンを同時に押すと、初期設定値の「0」に戻ります。

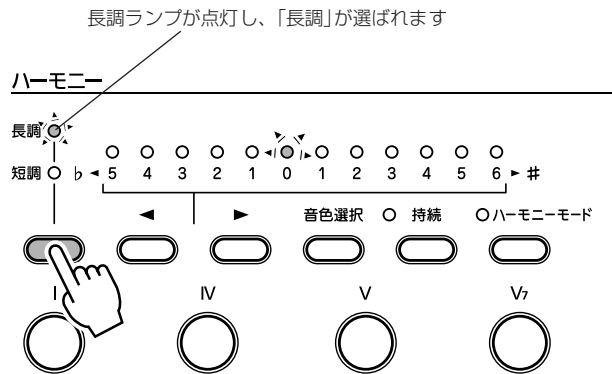




## 例：二長調を選んでみよう

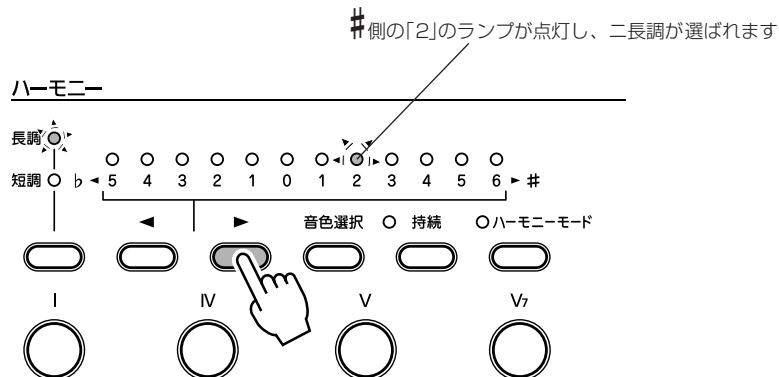
1. 長調/短調、どちらの調を鳴らすか選びます。

二長調なので、[長調/短調切り替え]ボタンを押して「長調」を選びます。

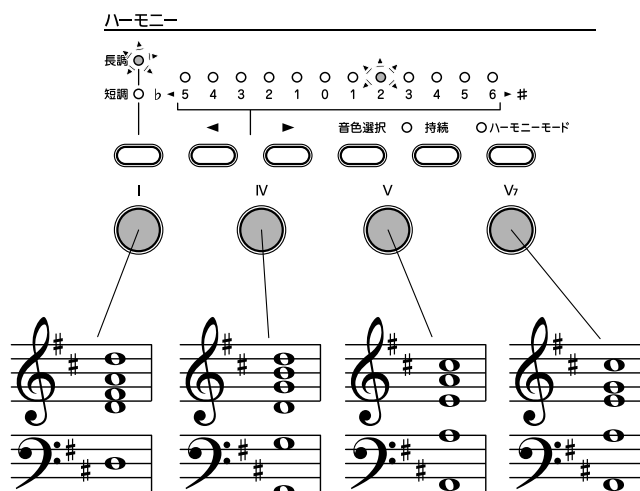


2. ♭と♯の数を入力します。

二長調は、左ページの表を見ると♯が2つ付いていますので、ハーモニー調選択[▶]ボタンを押して「♯2つ」を選びます。



これで二長調が選ばれました。[ハーモニー]ボタンを押して、二長調のハーモニーを聞いてみましょう。

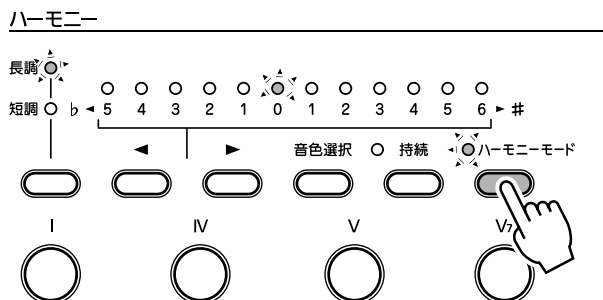


## ハーモニーモードで演奏する

ハーモニーモードを選ぶと、鍵盤の音色もハーモニーの音色選択で選んだ音色に変更されます。  
また、楽器全体の調律も、選んだ調の純正律に最も近くなるよう調整されます。

[ハーモニーモード] ボタンを押すと、ハーモニーモードランプが点灯します。  
鍵盤を弾くと、ハーモニーの音色選択で選んだ音色で鳴ります。

！・ハーモニーモードがオンになっているときは、「アタック」、「プリリアンス」、「サステイン」、「ビブラート」、「リバーブ」が効かなくなります。また、リズムやフロッピーディスクの再生、演奏の録音もできなくなります。



ハーモニーモードでは、選択している調以外の調の曲を弾くと、チューニングがずれて聞えます。これは純正律がひとつの調に限定したチューニングをする方法だからです。他の調の曲を弾くときは、ハーモニーモードの調を弾く調に合わせてから弾いてください。

ハーモニーモードでは「純正律」にもっとも近くなる調律方法を使用しています。私達が一般的に聞いている音楽のほとんどは、「平均律」と呼ばれる調律方法を使用した音楽です。ここでは、純正律と平均律の違いについてお話しします。

### 純正律とは？

純正律とは、美しい響きを求めて確立された調律方法です。純正律に沿った合唱や管楽器の演奏では、極めて美しい響きを得ることができます。

しかし、純正律は1種類の調に限定された調律方法のため、例えば、八長調の純正律で調律されたピアノで、二長調の曲を演奏すると、調律が合わないために、聞くに堪え難い演奏になってしまいます。そのため時代が進むにつれて、純正律はあまり使われなくなっていきました。それに変わって普及したのが、次に説明する平均律と呼ばれる調律方法なのです。

### 平均律とは？

平均律とは、1オクターブ(12個の音)を規則正しく平等な音程に分割(隣り合う半音に同じ比率を掛け合わせる)して、それを半音として定めた調律方法です。

そのため、平均律では、何調で弾いてもこの比は変わらず、どのように転調しても均質な響きを得られるのが特徴です。

しかし、平均律にも欠点があります。単純に半音として調律された音は、純正律のときのような完全に協和した響きを得られないということです。しかし、何調でも程よい響きを得る平均律の方が圧倒的に利点が多いという理由から、広く一般に普及しています。

# ディスクレコーダーの操作

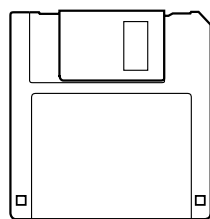
SHK-1000Ⅱはフロッピーディスクドライブを搭載しています。演奏を録音/再生したり、市販の音楽データをSHK-1000Ⅱで再生することができます。

## フロッピーディスクについて

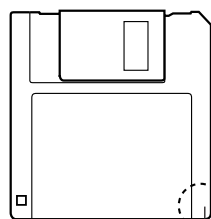
### フロッピーディスクの規格

SHK-1000Ⅱで録音/再生に使用できるフロッピーディスクは、3.5インチの2HDまたは2DDフロッピーディスクです。

2HDフロッピーディスク



2DDフロッピーディスク



窓がないのが2DD

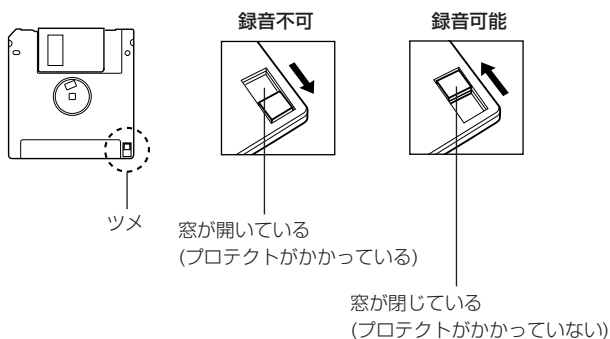
### フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスク内のデータやフロッピーディスクドライブを破損する原因になりますので、フロッピーディスクを扱うときは、以下の項目に注意してください。

- ・フロッピーディスクのシャッターをスライドさせて、磁体面に触れないでください。また、煙やスプレーを吹きかけたりしないでください。
- ・ホコリや振動の多い場所に保管しないでください。
- ・テレビやラジオ、スピーカーなど、磁気を帯びた物には近づけないでください。
- ・フロッピーディスクの温度条件は、4℃～52℃です。それ以下、またはそれ以上の温度になる場所に保管しないでください。
- ・シャッターが上下に開いているような変形したフロッピーディスクは使用しないでください。

### 録音内容の保護

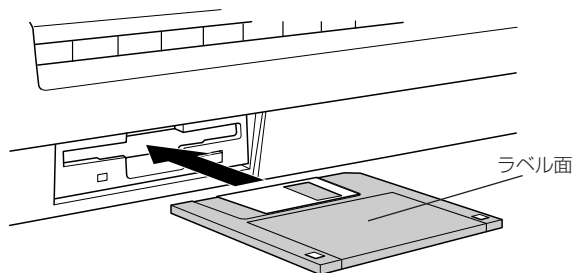
大切な録音内容を誤って消さないために、フロッピーディスク裏面のツメをスライドしておくと、録音ができなくなります。この状態を「プロテクト」といい、再生のみができます。



### フロッピーディスクの出し入れ

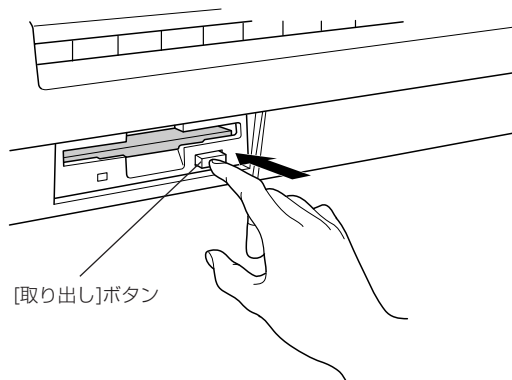
#### ■ フロッピーディスクを入れるとき .....

図のようにラベル面を上にして、SHK-1000Ⅱ前面左側のフロッピーディスクドライブに「カチャ」と音がするまで差し込みます。



#### ■ フロッピーディスクを取り出すとき .....

ディスクアクセスランプが消えていることを確認したら、[取り出し]ボタンを押して取り出します。



- ・ディスクアクセスランプが点灯中(再生中や録音中など)は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ランプ点灯中にフロッピーディスクを取り出すと、フロッピーディスクドライブや内部のデータを損傷する恐れがあります。

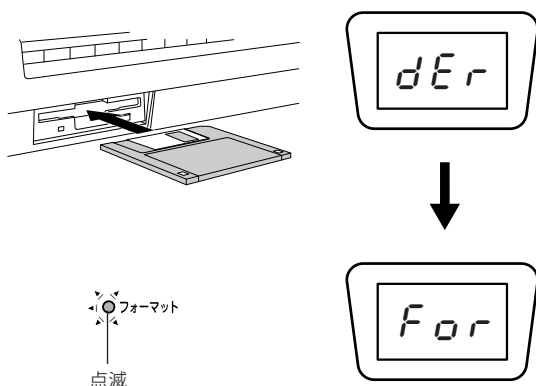
## フォーマットのしかた

新しく用意したフロッピーディスクは、**フォーマット(初期化)**と呼ばれる処理をしなければ使うことができません。ここでは、フォーマットについて説明します。

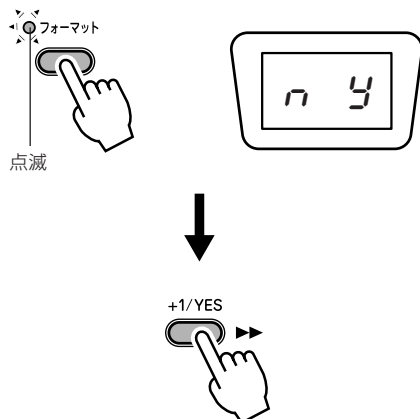
### 新しいフロッピーディスクのフォーマット

新しいフロッピーディスクを、SHK-1000Ⅱで使えるようにフォーマット(初期化)します。

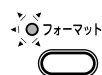
1. 未フォーマットのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れると、ディスプレイに「dEr」→「For」と表示されます。そしてフォーマットランプが点滅し、フォーマット待機状態になります。



2. [フォーマット]ボタンを押すと、ディスプレイに「n y」と表示されますので、[+1/YES]ボタンを押してフォーマットを実行します。  
(フォーマットをキャンセルするときは、[-1/NO]または[フォーマット]ボタンを押します。)



3. 実行時はフォーマットランプが点灯し、ディスプレイに「150 ~ 1 ~ End」と表示されます。フォーマットが終了するとフォーマットランプは消え、ディスプレイには「d 1」(フロッピーディスクの1曲目)と表示されます。



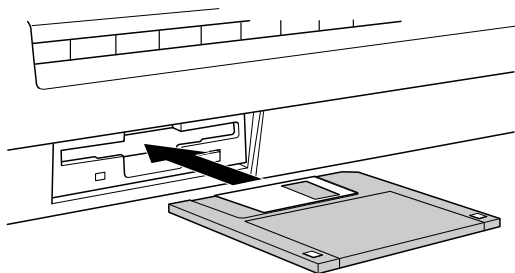
「150 → 159 → 158 ~  
3 → 2 → 1 → End → d 1」  
と、表示されます。

- ・ 以下のフロッピーディスクはフォーマットできませんので、ご注意ください。「DOCディスク」、「ピアノプレーヤーソフトディスク」、「ライトプロテクトされているフロッピーディスク」  
フォーマットできないフロッピーディスクを入れて[フォーマット]ボタンを押すと、「Pro」と表示されます。

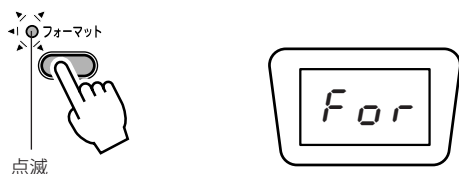
## フロッピーディスクの再フォーマット

他のフォーマットがされたフロッピーディスクを、SHK-1000Ⅱで使えるように再フォーマットします。

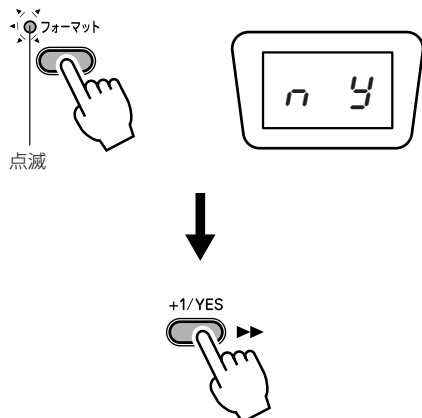
1. プロテクトがかかっていないことを確認して、再フォーマットしたいフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブへ差し込みます。



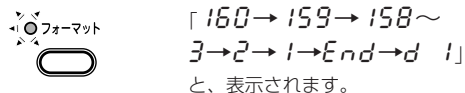
2. [フォーマット]ボタンを押すと、フォーマットランプが点滅します。ディスプレイに「For」と表示され、フォーマット待ち状態になります。



3. [フォーマット]ボタンを押すと、ディスプレイに「n 4」と表示されますので、[+1/YES]ボタンを押してフォーマットを実行します。  
(フォーマットをキャンセルするときは、[-1/NO]または[フォーマット]ボタンを押します。)



4. 実行時はフォーマットランプが点灯し、ディスプレイに「150 ~ 1 ~ End」と表示されます。フォーマットが終了するとフォーマットランプは消え、ディスプレイには「d 1」(フロッピーディスクの1曲目)と表示されます。



- ・以下のフロッピーディスクはフォーマットできませんので、ご注意ください。「DOCディスク」、「ピアノプレーヤーソフトディスク」、「ライトプロテクトされているフロッピーディスク」  
フォーマットできないフロッピーディスクを入れて[フォーマット]ボタンを押すと、「Pro」と表示されます。

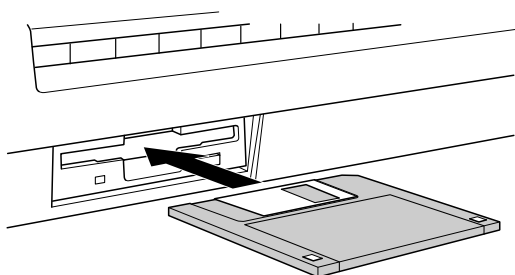
## 再生のしかた

フロッピーディスクに入っている曲を再生します。SHK-1000 II では録音したデータ以外に、SMF(スタンダードMIDIファイル)フォーマット0, 1データ、XG曲集データ、GM曲集データの再生ができます。

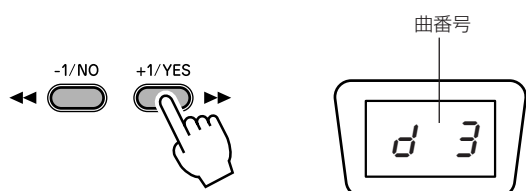
### 曲を選んで再生する

フロッピーディスクに入っている演奏を選んで再生します。

1. 演奏データが入っているフロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブへ差し込みます。

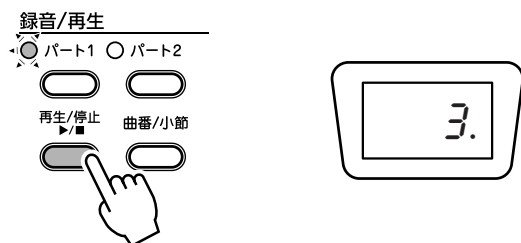


2. [+1/YES]/[-1/NO]ボタンを押して曲を選びます。

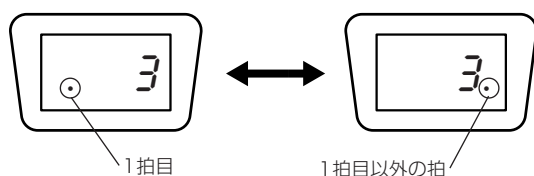


- ・ディスプレイが他の表示になっているときは、[曲番/小節]ボタンを押します。

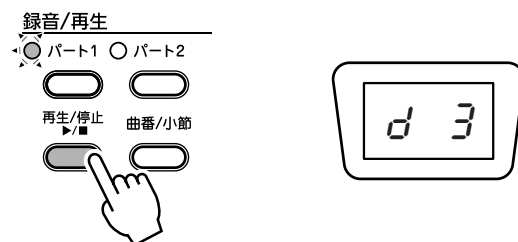
3. [再生/停止]ボタンを押すと、演奏が再生されます。ディスプレイには小節数と拍が表示されます。



拍はディスプレイのドットで表示されます。1拍目は左側のドット、その他の拍は右側のドットが点灯します。



4. もう一度[再生/停止]ボタンを押すか曲が終わると、再生が停止します。



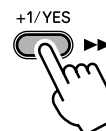
- ・曲の再生中は、リズムを選んだり鳴らすことはできません。
- ・ハーモニーモードがオンになっていると、曲のスタートができません。

### 早送り/早戻し/一時停止をする

テープレコーダー気分で曲をコントロールできます。

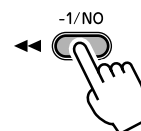
#### ■ 早送り .....

再生中に[+1/YES/▶▶]ボタンを押します。押している間、曲を聞きながら早送りできます。



#### ■ 早戻し .....

再生中に[-1/NO/◀◀]ボタンを押します。早戻しは押している間、曲を聞くことができません。確認はディスプレイの小節数で行なってください。



- ・SMF フォーマット 1で保存されているデータは、早戻しできません。



- 一時停止をするとき .....  
再生中に[一時停止]ボタンを押します。一時停止ランプが点滅し一時停止されます。もう一度[一時停止]ボタンを押すと、再生が再開されます。

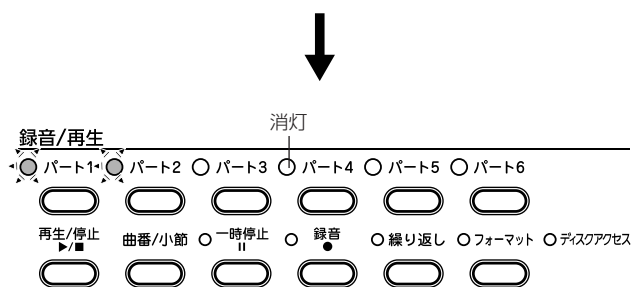
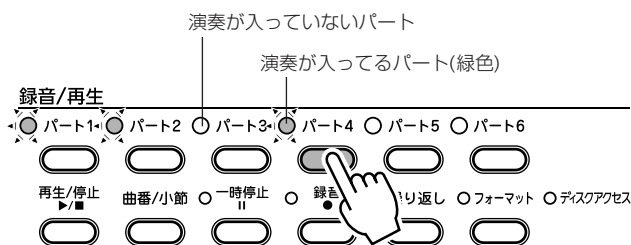


メモ 一時停止中に[+1/YES/▶▶]/[-1/NO/◀◀]ボタンを押すと、ボタンを押している間、小節単位で早送り/早戻しができます(曲は鳴りません)。

## パートを選んで再生する

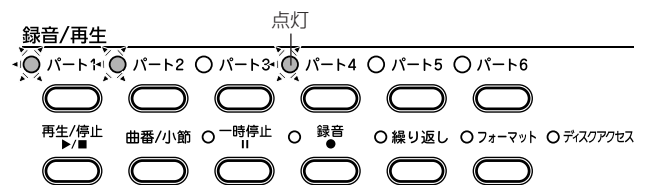
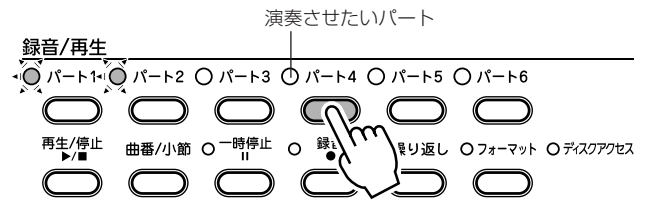
SHK-1000Ⅱは、1曲の演奏データを6パートに分けて再生します。そのなかで演奏させるパート、させないパートを選ぶことができます。

1. 曲を選ぶと、演奏が入っているパートは、パートランプが緑色に点灯します。[パート]ボタンを押してパートランプを消すと、そのパートは鳴りません。



パート1とパート2のみが鳴ります。

2. [パート]ボタンを押してパートランプを点灯させると、そのパートを鳴らすことができます。



パート1, パート2, パート4が鳴ります。

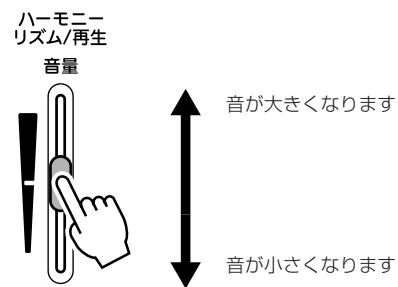
メモ データ形式により、SHK-1000Ⅱでのパート分けが異なります。このページ下のリストをご参照ください。

！ 演奏の入っていないパートを選ぶことはできません。

## 音量を変える

再生の音量を変更します。

再生の音量は、[ハーモニー/リズム/再生音量]レバーで変更します。



## SHK-1000Ⅱのパートボタンと送受信のMIDIチャンネルの関係

パート番号	パート1	パート2	パート3	パート4	パート5	パート6
SHKデータ	Tr.1	Tr.2	Tr.3	Tr.4	Tr.5~9, 12~16	Tr.10, 11
SMFデータ	Tr.1	Tr.2	Tr.3	Tr.4	Tr.5~9, 11~16	Tr.10
SEソフト	Tr.4	Tr.5	Tr.6	Tr.7	Tr.1~3, 8~10	Tr.15
ESEQファイル	Tr.1	Tr.2	Tr.3	Tr.4	Tr.5~14, 16	Tr.15

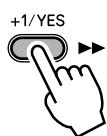
## テンポを変える

再生のテンポを変更します。

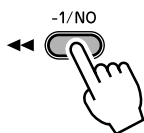
1. **[テンポ]ボタンを押すと**、ディスプレイには現在のテンポ値が表示されます。



2. **[-1/NO]/[+1/YES]ボタンを押すと**、♩=32~280の間でテンポを変更することができます。



[+1/YES]ボタンを押すたびに  
「121→122→123...」  
と、数値が増えます。



[-1/NO]ボタンを押すたびに  
「119→118→117...」  
と、数値が減ります。

- ・ 違うフロッピーディスクを挿入すると、テンポは自動的に切り替わります。
- ・ [-1/NO]ボタンと[+1/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定値に戻ります。
- ・ ディスプレイに曲番号を表示させるには、[曲番/小節]ボタンを押します。

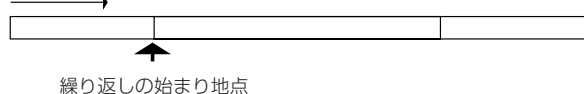
## 繰り返し再生する

曲の一部分だけを繰り返し再生することができます。

1. 曲を再生し、繰り返しを始めたい所で**[繰り返し]ボタンを押します**。繰り返しランプが点滅し、繰り返しの始まりが設定されます(再生は続いています)。



曲の進行方向

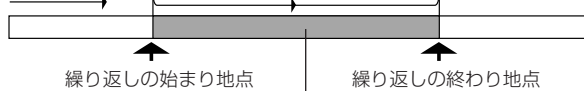


- ・ 繰り返し設定を止めたいときは、[再生/停止]ボタンを押して、演奏をストップさせます。
- ・ 繰り返し設定は小節単位で設定されます。

2. 繰り返しを終わりたい所で、もう一度**[繰り返し]ボタンを押します**。繰り返しランプが点灯し、繰り返しの終わりが設定されます。



曲の進行方向



この間を繰り返し再生します

繰り返しの設定が終わると、設定した小節間で繰り返し再生されます。

- ・ 1曲すべてを繰り返し再生したいときは、[繰り返し]ボタンを押してから[再生/停止]ボタンを押します。
- ・ フロッピーディスク内の全曲を繰り返し再生したいときは、[繰り返し]ボタンを押しながら[再生/停止]ボタンを押します。ディスプレイには、「ALL」と表示されます。
- ・ 繰り返し設定を止めたいときは、[再生/停止]ボタン、または[繰り返し]ボタンを押します。
- ・ 繰り返しの終わりを設定せずに再生が終わると、曲の最後が繰り返し設定の終わり地点になります。

## 録音のしかた

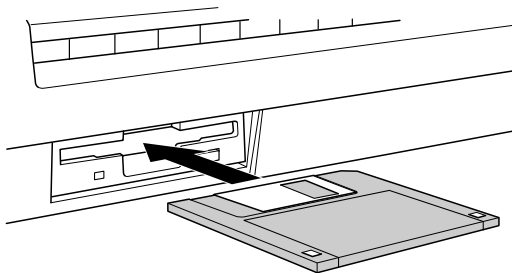
演奏をフロッピーディスクに録音します。録音のしかたは「曲を最初から録音する方法」と、「曲の途中から録音する方法」(パンチイン録音)と、「外部MIDI機器から録音する方法」の3種類があります。

### 曲を最初から録音する

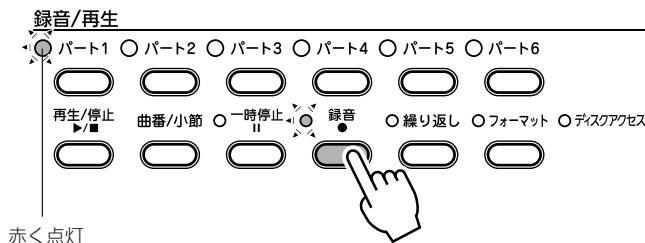
1曲全部を最初から最後まで録音します。

- ❗ ・ 録音をするときは、録音したい音色やテンポ、アタックやプリリアンスなどを、あらかじめ決めておいてください。

1. フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブへ差し込みます。



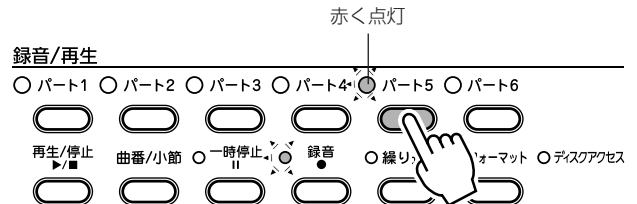
2. [録音]ボタンを押すと、録音ランプとパート1のランプが赤く点灯し、録音待機状態になります。また、メトロノームランプが点灯し、メトロノームが鳴ります。



- メモ ・ メトロノームを止めたいときは[メトロノーム]ボタンを押します。  
 ・ 既にパート1に録音がされている場合は、パート1のランプは緑色に点灯し、隣のパート(パート2)が選ばれ(赤く点灯)ます。  
 ・ 録音をキャンセルする場合は、もう一度[録音]ボタンを押します。

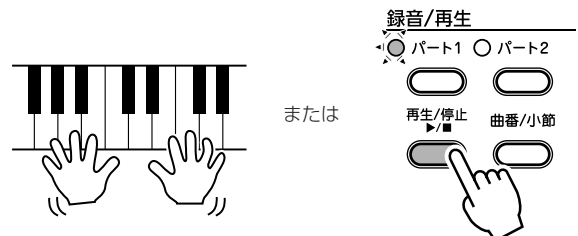
- ❗ ・ [録音]ボタンから指を離すと、フロッピーディスクの残り容量が1秒間表示されます。表示が「Full」の場合は、それ以上の録音ができなくなります。

3. 自分で録音するパートを選ぶときは、録音待機状態で録音したいパートのボタン(1~6)を押します。押したパートのランプが赤く点灯します。

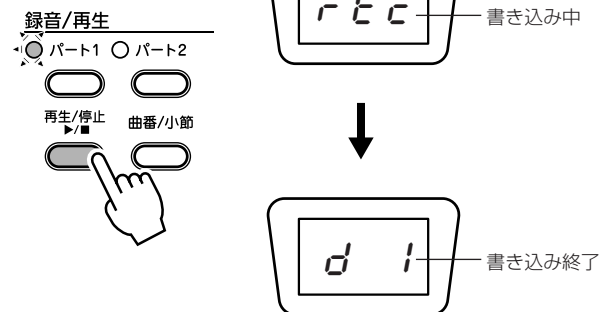


- メモ ・ パート6は打楽器専用トラックです。[パート6]のボタンを押すと、音色が打楽器に変わり、打楽器の録音待機状態になります。

4. 鍵盤を弾くとすぐに録音が始まります。[再生/停止]ボタンを押すと、2小節のカウントの後、録音が始まります(カウント音とカウント時の演奏は録音されません)。



5. 録音を終了するときは、[再生/停止]または[録音]ボタンを押します。録音が終了すると、フロッピーディスクに演奏情報が書き込まれます。書き込んでいる間ディスプレイには「rEc」と表示されます(この間、リズムなどの操作はできません)。



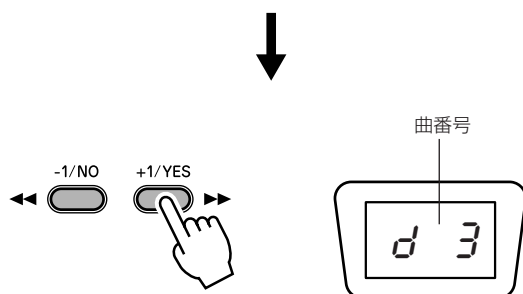
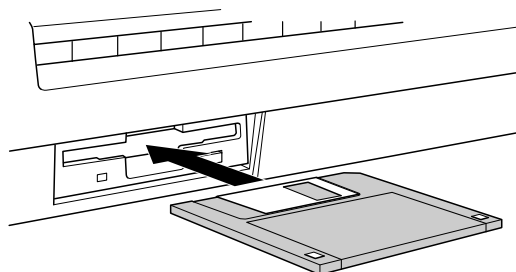
- メモ ・ 違うパートに続けて録音する場合は、手順3に戻って操作します。

- ❗ ・ 「rEc」表示中は、絶対にフロッピーディスクを抜いたり電源を切らないでください。演奏データが失われます。

## 曲の途中から録音する(パンチイン録音)

演奏を変えたいところや、間違えたところなど、曲の途中から録音し直します。

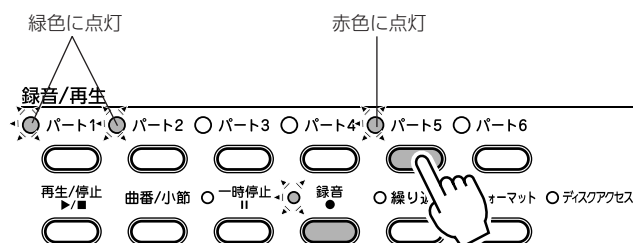
1. フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブへ差し込み、[+1/YES]/[-1/NO] ボタンを押して曲を選びます。



2. 録音したいところまで曲を再生し、[一時停止] ボタンを押します。



3. [録音] ボタンを押して録音待機状態にし、録音したい[パート] ボタンを押して、パートランプを赤く点灯させます。

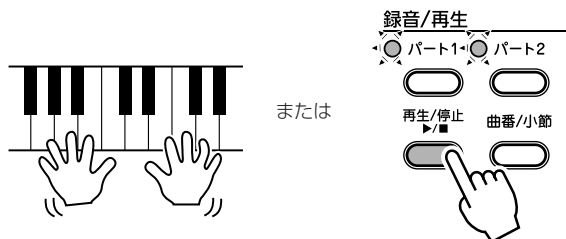


・ 録音をキャンセルするときは、もう一度[録音]ボタンを押します。



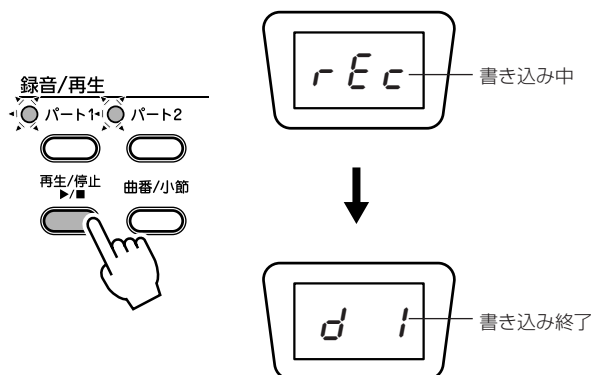
・ パート6はリズム専用トラックなので、録音はできません。

4. 鍵盤を弾くか、[再生/停止]ボタンを押すと、録音が始まります。



5. [再生/停止]ボタン、または[録音]ボタンを押すと、録音が停止されます。

ディスプレイに「rEc」と表示され、録音した演奏情報が前の演奏情報に上書きされます。



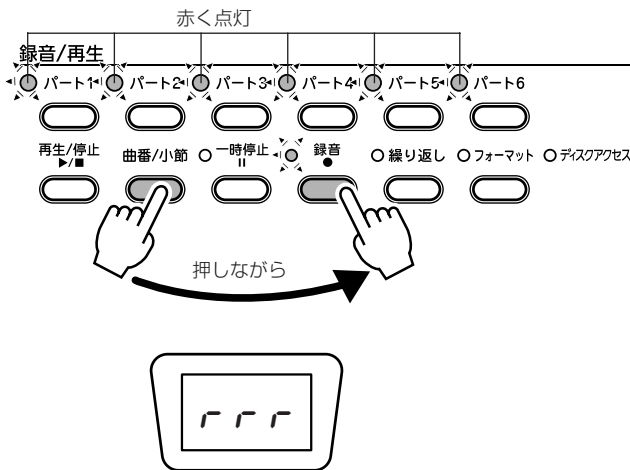
・ 「rEc」表示中は、絶対にフロッピーディスクを抜いたり電源を切らないでください。演奏データが失われます。

## MIDI機器から録音する

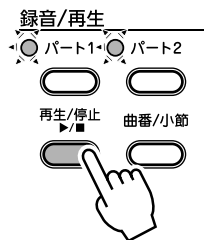
外部MIDI機器の演奏を、SHK-1000Ⅱで録音します。

### ■ すべてのトラックに録音するとき .....

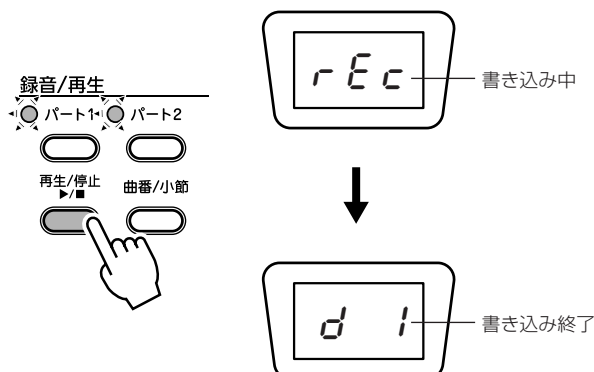
1. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに差し込んだ後、**[曲番/小節]**ボタンを押しながら**[録音]**ボタンを押します。すべてのパートランプが赤く点灯し、録音待機状態になります(ボタンを押している間ディスプレイには、「rrr」と表示されます)。



2. **[再生/停止]**ボタンを押すと、録音が始まります。その後、外部MIDI機器の演奏をスタートさせると、SHK-1000Ⅱへ演奏が録音されます。



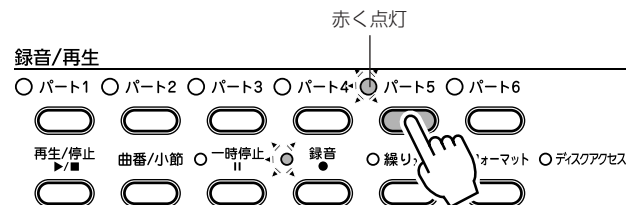
3. 録音を終了するときは、**[再生/停止]**ボタンまたは**[録音]**ボタンを押します。録音終了後、ディスプレイには「rec」と表示され、録音した演奏情報がフロッピーディスクに書き込まれます。



❗ 「rec」表示中は、絶対にフロッピーディスクを抜いたり電源を切らないでください。演奏データが失われます。

### ■ 任意のトラックに録音するとき .....

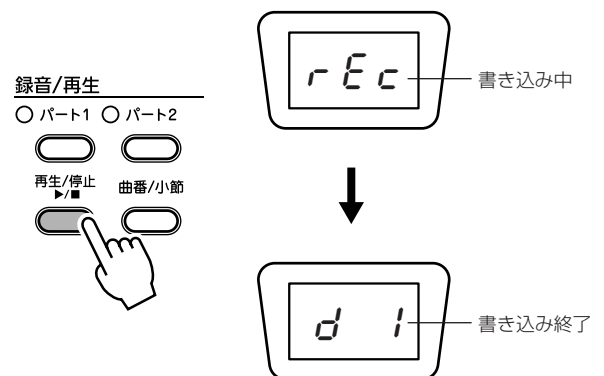
1. 任意のトラックに録音するときは、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに差し込んだ後、**[録音]**ボタンを押して録音待機状態にし、録音したい**[パート]**ボタンを押してパートランプを赤く点灯させます。



2. **[再生/停止]**ボタンを押すと、録音が始まります。その後、外部MIDI機器の演奏をスタートさせると、SHK-1000Ⅱへ演奏が録音されます。



3. 録音を終了するときは、**[再生/停止]**ボタン、または**[録音]**ボタンを押します。録音終了後、ディスプレイには「rec」と表示され、録音した演奏情報がフロッピーディスクに書き込まれます。

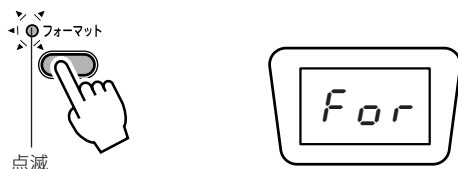


❗ 「rec」表示中は、絶対にフロッピーディスクを抜いたり電源を切らないでください。演奏データが失われます。

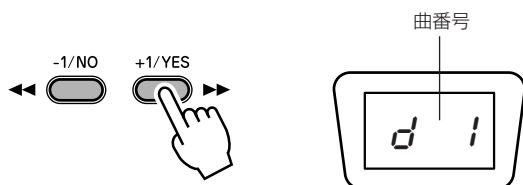
## 演奏を消去する

フロッピーディスクに入っている演奏を消去します。

1. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブへ差し込み、[フォーマット]ボタンを押すと、フォーマットランプが点滅し、ディスプレイに「For」と表示されます。

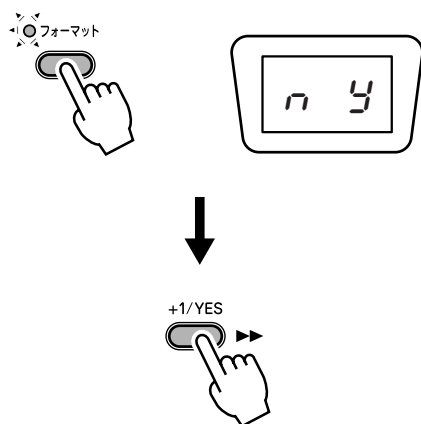


2. [+1/YES]/[-1/NO]ボタンを押して消去する曲を選びます。

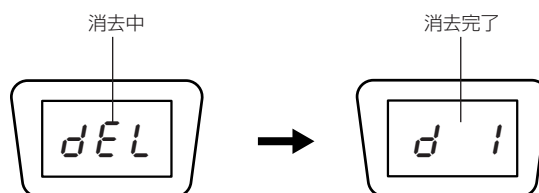


**メモ** ・ 消去できる範囲は、「For」、「ALL」、と「d 1～」です。  
For：フロッピーディスクのフォーマット  
ALL：全曲の消去

3. [フォーマット]ボタンを押すと、ディスプレイに「n y」と表示されますので、[+1/YES]ボタンを押して消去を実行します。  
(消去をキャンセルするときは、[-1/NO]または[フォーマット]ボタンを押します。)



4. 実行時はフォーマットランプが点灯し、ディスプレイに「dEL」と表示されます。  
消去が終了すると、フォーマットランプは消えディスプレイは、元の表示に戻ります。



**メモ** ・ 1パートだけの演奏を消去したいときは、消去したいパートの録音を開始し、鍵盤やボタンを一切触らず録音を終了します。

**!** ・ 以下のフロッピーディスクは消去できませんので、ご注意ください。  
「DOCディスク」、「ピアノプレーヤーソフトディスク」、「ライトプロテクトされているフロッピーディスク」  
消去できないフロッピーディスクを入れて[フォーマット]ボタンを押すと、「Pro」と表示されます。



# MIDIについて

SHK-1000 IIはリアパネルにMIDI端子とTO HOST端子が付いています。MIDI機能の活用により、音楽の可能性を拡げることができます。ここではMIDIとは何か、MIDIでできることについて説明します。

## MIDIって？

MIDI(ミディ)とは、「Musical Instrument Digital Interface」の略で、「電子楽器間のデジタル通信」という意味です。MIDIは電子楽器どうし、またはコンピューターなどと、演奏情報のやり取りを行なうために生まれた世界共通の規格です。複数のMIDI楽器(機器)を専用のケーブルで接続すれば、楽器(機器)間でさまざまな演奏情報の送受信ができ、より高度な演奏が可能になります。

### MIDI端子

MIDI IN端子 ..... 他のMIDI機器からMIDI情報を受信します。

MIDI OUT端子 ..... SHK-1000 IIの演奏情報をMIDI信号とし、他のMIDI機器に送信します。

TO HOST端子 ..... 他のMIDI機器とMIDI情報を送受信します。



## 接続方法について

接続する外部MIDI機器やコンピューターの接続端子によって、いくつかの接続方法があります。

### ● USB端子を持ったコンピューターと接続する方法

(右図：USBシリーズ)

USB端子付属のコンピュータとSHK-1000 IIを接続する場合は、別売のUSB-MIDIインターフェース(UX16など)を使用します。SHK-1000 IIのHOST SELECTスイッチは、「MIDI」にしてください。

### ● USB端子を持たないMacintoshシリーズと接続する方法

(右図：Macintoshシリーズ)

Macintoshシリーズと接続する場合は、シリアルケーブル(CCJ-MAC)で接続します。SHK-1000 IIのHOST SELECTスイッチは、「MAC」にします。使用するシーケンスソフトウェア側で、MIDIインターフェースのクロックを「1MHz」にセットしてご使用ください。

### ● NEC PC-9801/21シリーズと接続する方法

(右図：NEC PC-9801/21シリーズ)

NEC PC-9801/21シリーズと接続する場合は、シリアルケーブル(CCJ-PC1 NF)で接続します。SHK-1000 IIのHOST SELECTスイッチは、「PC-1」にしてください。使用するシーケンスソフトウェアによっては、HOST SELECTスイッチを「PC-2」にセットしないと動作しないものがあります。

### ● IBM-PC/ATシリーズと接続する方法

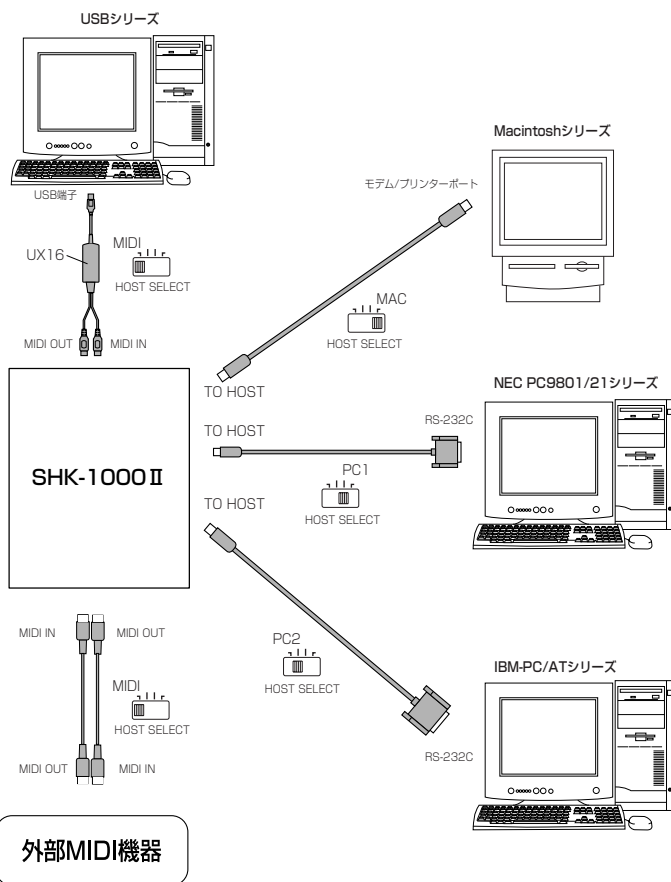
(右図：IBM-PC/ATシリーズ)

IBM-PC/ATシリーズと接続する場合は、シリアルケーブルCCJ-PC2Lで接続します。SHK-1000 IIのHOST SELECTスイッチは、「PC-2」にしてください。

### ● MIDI端子を持った機器と接続する方法

(右図：外部MIDI機器)

MIDI端子の付いた機器とSHK-1000 IIを接続する場合は、別売のMIDIケーブルで接続します。SHK-1000 IIのHOST SELECTスイッチは、「MIDI」にしてください。



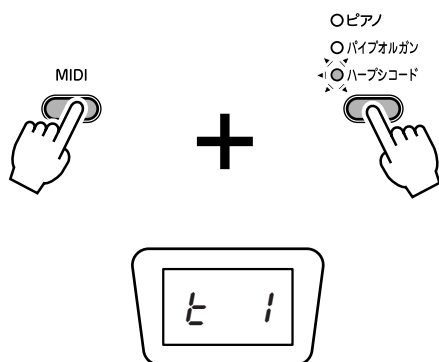
## MIDIの設定

SHK-1000 II では、MIDIに関して8種類の設定ができます。

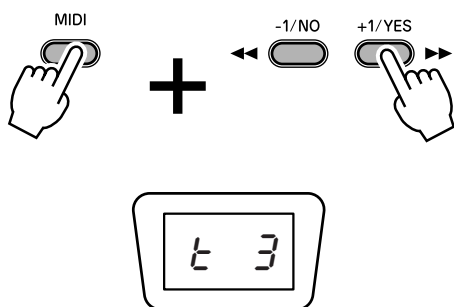
### MIDI送信チャンネルの設定

MIDIには1～16のチャンネルがあり、それぞれが独立した演奏情報を送受信できます。ここでは、SHK-1000 II の演奏情報をどのチャンネルでMIDI送信するかを設定します。

1. [MIDI] ボタンを押しながら、音色選択の「ハーブシコード」を選びます。ボタンを押している間ディスプレイには、現在のMIDI送信チャンネルが表示されます。



2. [MIDI] ボタンを押しながら、[+1/YES]/[-1/NO] ボタンを押して、1～16の間でMIDI送信チャンネルを選びます。



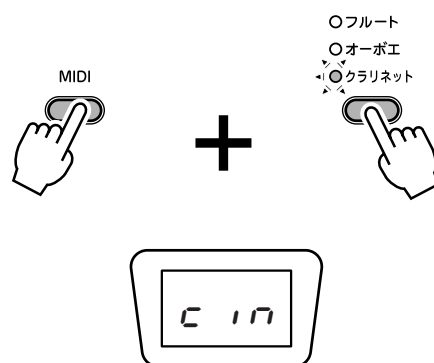
**メモ** ・電源を入れたとき、MIDI送信チャンネルは「1」に設定されています。

- ・ハーモニーと打楽器はMIDI送信チャンネルを選ぶことはできません。(ハーモニーは5ch、打楽器は10chでMIDI送信されます。)
- ・SHK-1000 II の打楽器配列はGM規格とは異なった配列を採用しています。SHK-1000 II の楽器配列とGMのドラム配列を同じにするため、10chから打楽器演奏の情報をMIDI送信するとき、押した鍵盤のノートナンバーと異なったノートナンバーをMIDI送信します。また、GM配列にない打楽器に関しては、その音に近い代替音が鳴ります。詳しくは39ページを参照してください。

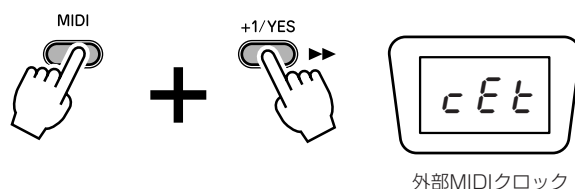
### MIDIクロックの設定

MIDIクロックとは、MIDI機器と接続し再生や録音をするときの基本となるテンポのことです。内部MIDIクロック (SHK-1000 II のテンポ) で演奏するか、外部MIDIクロック (外部機器のテンポ) で演奏するかを選びます。

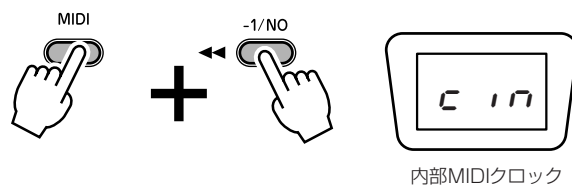
1. [MIDI] ボタンを押しながら、音色選択の「クラリネット」を選びます。ボタンを押している間ディスプレイには、現在の設定が表示されます。



2. [MIDI] ボタンを押しながら、[+1/YES]/[-1/NO] ボタンを押して、内部MIDIクロック「c in」/外部MIDIクロック「c Et」を選びます。



外部MIDIクロック



内部MIDIクロック

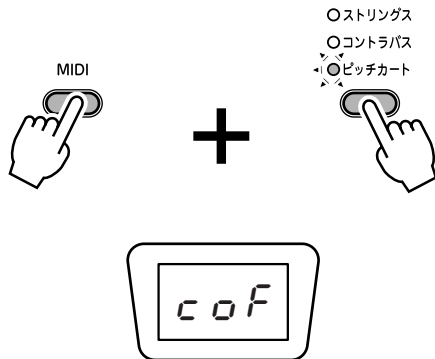
**メモ** ・電源を入れたとき、MIDIクロックは「内部」に設定されています。

- ・MIDIクロックを「外部」に設定した場合、必ずMIDIコントロールを「ON」にしてください。MIDIコントロールが「OFF」の場合、外部機器からの信号を受信しないため、SHK-1000 II のリズムや曲がスタートしません。

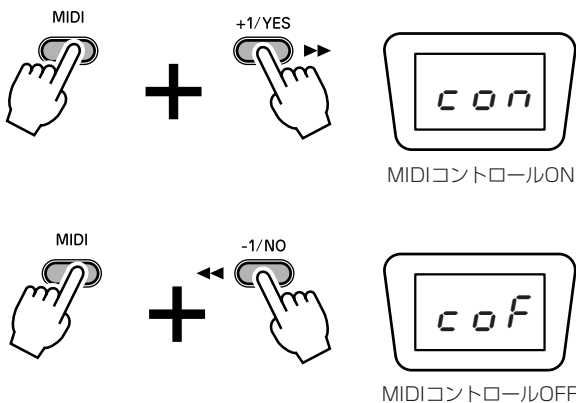
## MIDIコントロールの設定

MIDIシステム・リアルタイムメッセージ(クロック、スタート、ストップ、コンティニュー)の送受信を行なうかどうかを設定します。「ON」にすると送受信を行なうため、外部MIDI機器からSHK-1000Ⅱの操作が可能になります。「OFF」にすると送受信は行ないません。

1. [MIDI]ボタンを押しながら、音色選択の「ピッチカート」を選びます。ボタンを押している間ディスプレイには、現在の設定が表示されます。



2. [MIDI]ボタンを押しながら、[+1/YES]/[-1/NO]ボタンを押して、コントロールON「con」/コントロールOFF「cof」を選びます。

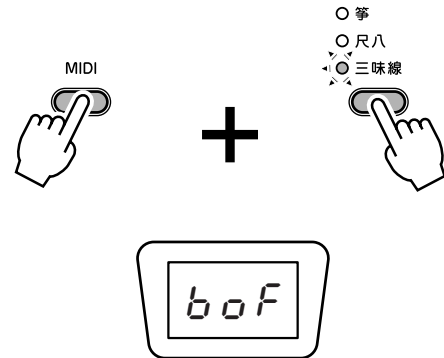


メモ・電源を入れたとき、MIDIコントロールは「ON」に設定されています。

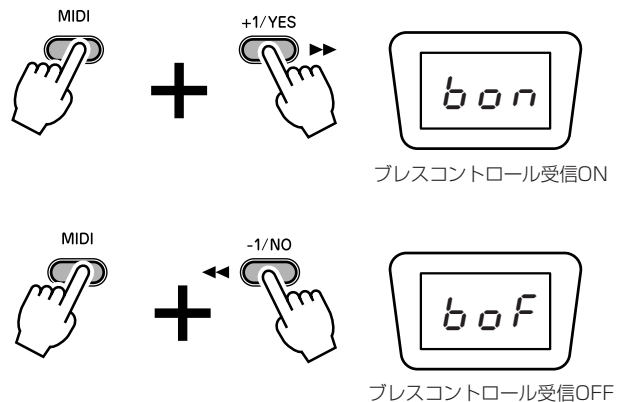
！・MIDIコントロールを「OFF」に設定すると、外部MIDI機器からSHK-1000Ⅱのコントロールができなくなります。

## ブレスコントロール受信の設定

1. [MIDI]ボタンを押しながら、音色選択の「三味線」を選びます。ボタンを押している間ディスプレイには、現在の設定が表示されます。



2. [MIDI]ボタンを押しながら、[+1/YES]/[-1/NO]ボタンを押して、ブレスコントロール受信ON「bon」/ブレスコントロール受信OFF「bof」を選びます。



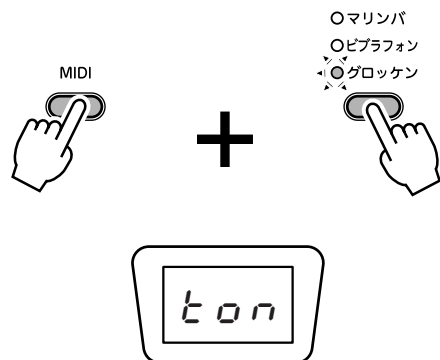
メモ・電源を入れたとき、ブレスコントロール受信は「OFF」に設定されています。

・ブレスコントロール受信を「ON」に設定すると、外部MIDI機器からブレスコントロール情報を受信したとき、SHK-1000Ⅱはエクスプレッション情報に変換します。

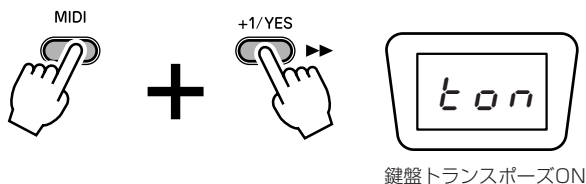
## 鍵盤トランスポーズの設定

フロッピーディスク内の演奏を再生中に移調機能を使った際、再生中の曲の音程と鍵盤の音程を同時に移調させるかどうかの設定をします。

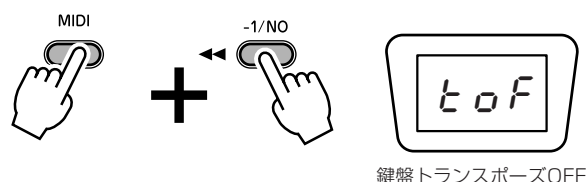
1. [MIDI]ボタンを押しながら、音色選択の「グロッケン」を選びます。ボタンを押している間ディスプレイには、現在の設定が表示されます。



2. [MIDI]ボタンを押しながら、[+1/YES]/[-1/NO]ボタンを押して、鍵盤トランスポーズON「ton」/鍵盤トランスポーズOFF「tof」を選びます。



鍵盤トランスポーズON



鍵盤トランスポーズOFF

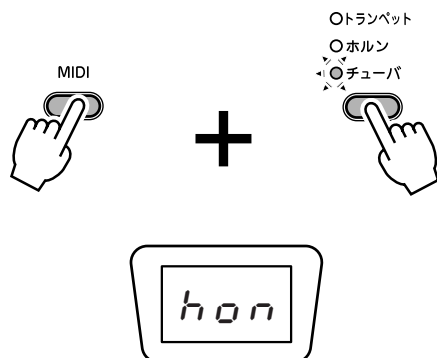
**メモ** ・電源を入れたとき、トランスポーズは「ON」に設定されています。

**!** ・鍵盤トランスポーズを「OFF」に設定すると、再生中の曲を移調しても鍵盤の音程は変わりません。

## ハーモニーの自動調選択の設定

ハーモニー機能の調を、フロッピーディスク内の演奏の調に合わせて自動的に変更させるかどうかの設定をします。

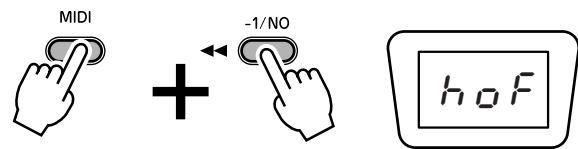
1. [MIDI]ボタンを押しながら、音色選択の「チューバ」を選びます。ボタンを押している間ディスプレイには、現在の設定が表示されます。



2. [MIDI]ボタンを押しながら、[+1/YES]/[-1/NO]ボタンを押して、ハーモニーの自動調選択を設定する「hon」/ハーモニーの自動調選択を設定しない「hof」を選びます。



ハーモニーの自動調選択を設定する



ハーモニーの自動調選択を設定しない

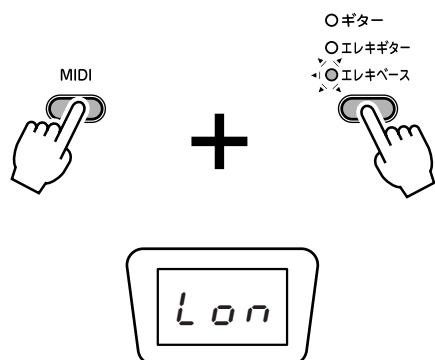
**メモ** ・電源を入れたとき、ハーモニーの自動調選択設定は「ON」に設定されています。

・ハーモニーの自動調選択設定は、フロッピーディスク演奏再生時のSMFメタ・イベントの調情報により切り替わります。

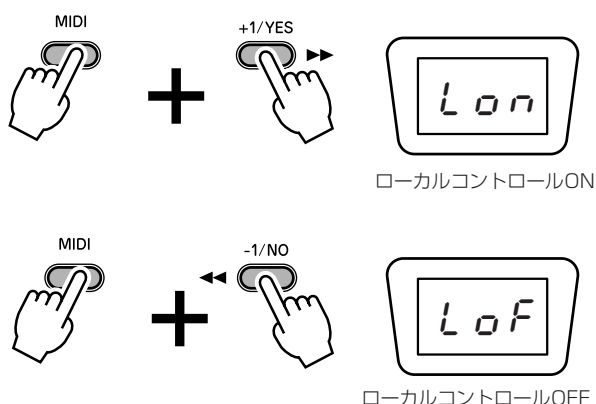
## ローカルコントロールの設定

鍵盤で弾いた演奏やハーモニーの演奏情報を、SHK-1000 IIで鳴らすかどうかを設定します。

1. [MIDI]ボタンを押しながら、音色選択の「エレキベース」を選びます。ボタンを押している間ディスプレイには、現在の設定が表示されます。



2. [MIDI]ボタンを押しながら、[+1/YES]/[-1/NO]ボタンを押して、ローカルコントロールON「Lon」/ローカルコントロールOFF「LoF」を選びます。



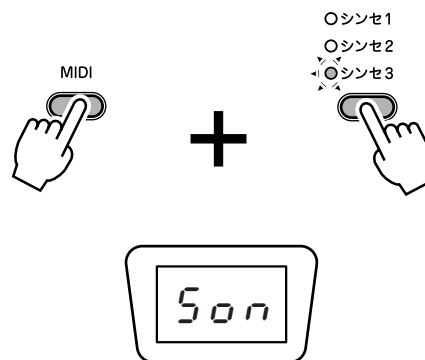
メモ・電源を入れたとき、ローカルコントロールは「ON」に設定されています。

！・ローカルコントロールを「OFF」に設定すると、鍵盤で弾いたときやハーモニーを演奏したときに、SHK-1000 IIから音が出なくなります。

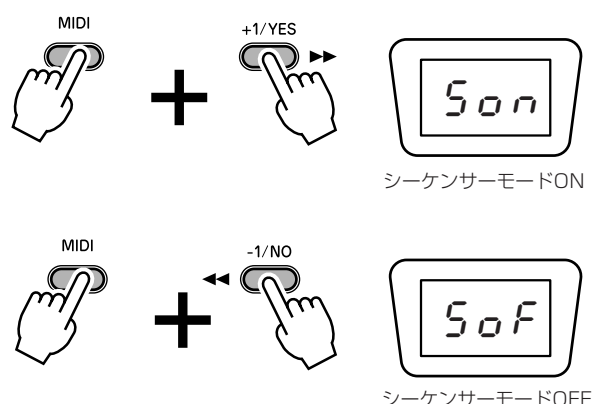
## シーケンサーモードの設定

フロッピーディスク内の演奏やMIDI IN端子から入力された演奏情報を、SHK-1000 IIで鳴らすかどうかを設定します。

1. [MIDI]ボタンを押しながら、音色選択の「シンセ3」を選びます。ボタンを押している間ディスプレイには、現在の設定が表示されます。



2. [MIDI]ボタンを押しながら、[+1/YES]/[-1/NO]ボタンを押して、シーケンサーモードON「Son」/シーケンサーモードOFF「Sof」を選びます。



メモ・電源を入れたとき、シーケンサーモードは「ON」に設定されています。

！・シーケンサーモードを「OFF」に設定すると、フロッピーディスク内の演奏を再生したときや外部MIDI機器からの演奏が、SHK-1000 IIのスピーカーから出なくなります。

# エラーメッセージについて

SHK-1000Ⅱはエラーが起きたときに、ディスプレイにエラーメッセージ(エラーの内容)を表示します。下記の表でエラー内容を確認し、必要に応じて処置を行なってください。

表示	原因	処置方法
dEr	フロッピーディスクの読み込み/書き込み中にエラーが発生した。 フォーマットされていないフロッピーディスクが挿入された。	フロッピーディスクをフォーマットしてください。(24ページ) * フォーマットを行なうと、フロッピーディスク内の演奏データは消去されますので、ご注意ください。
Pro	フロッピーディスクにプロテクトがかかっている。 録音できないフロッピーディスクに録音しようとした。	プロテクトを外してください。(23ページ) 再生専用のフロッピーディスクには、録音できません。他のフロッピーディスクに録音してください。(29ページ)
FUL	フロッピーディスクの容量がいっぱいになった。	フォーマットした別のフロッピーディスクに交換してください。(29ページ)
no	E-SEQやSMFフォーマット1の曲に上書き録音しようとした。	別の曲番に録音してください。
Err	MIDIデータ受信中にエラーが発生した。	MIDIケーブルやシリアルケーブルが外れていないことを確認して、もう一度受信してください。
hAr	ハーモニーモードがオンのときに、リズムやフロッピーディスクに関する操作を行なった。	ハーモニーモードをオフにしてください。

## 故障かな？と思ったら

故障ではないかと思いいなったら、下記の事項をご確認ください。それでも正しく作動しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は、電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから外して、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響サービス拠点まで、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症状	原因	処置方法
電源が入らない。	電源コードが抜けている。	電源コードをしっかりと差し込んでください。(6ページ)
音が出ない。	音量が上がっていない。	音量を上げてください。(7ページ)
ときどき、ガリッとカポツンという雑音が入る。	近くで電気製品の電源をON/OFFしている。	原因と思われる電気機器から、なるべく離れたコンセントを使用してください。
ラジオやテレビなどに雑音が入る。	近くでラジオやテレビなどを使っている。	なるべく離してご使用ください。
音が割れる、共鳴またはビリつく。	SHK-1000Ⅱの音は持続音が多いため、周囲の戸棚、窓ガラス、その他の器物に共鳴して音が割れて聞えることがあります。	音量を下げるか、共鳴物を取り除いてください。
録音できない。	フロッピーディスクが正しく差し込まれていない。 フォーマットされていない。 フロッピーディスクにプロテクトがかかっている。	フロッピーディスクを正しく差し込んでください。(23ページ) フォーマットしてください。(24ページ) プロテクトを外してください。(23ページ)
再生できない。	演奏が録音されていない曲番を再生しようとした。 消去した曲を再生しようとした。 異なったフォーマット形式の曲を再生しようとした。	曲番を選びなおしてください。(26ページ)
	MIDIクロックが「外部」になっている。 フォーマット0, 1以外のスタンダードMIDIファイルを再生しようとしている。	MIDIクロックを「内部」にしてください。(34ページ) フォーマット0, 1以外のスタンダードMIDIファイルは再生できません。
フロッピーディスク内の曲順が変わった。	パソコンや他のフロッピーディスクドライブ付き機器で、ファイルを追加、編集、削除をした場合に起こることがあります。	



## GM楽器リスト

楽器番号	音色名	楽器番号	音色名
<b>ピアノ</b>		<b>木管楽器1</b>	
1	グランドピアノ	65	ソプラノサクソフォン
2	ブライトピアノ	66	アルトサクソフォン
3	エレクトリックグランドピアノ	67	テナーサクソフォン
4	ホンキートンクピアノ	68	バリトンサクソフォン
5	エレクトリックピアノ 1	69	オーボエ
6	エレクトリックピアノ 2	70	イングリッシュホルン
7	ハーブシコード	71	バスーン
8	クラビ	72	クラリネット
<b>音板打楽器</b>		<b>木管楽器2</b>	
9	チェレスタ	73	ピッコロ
10	グlockenシュピール	74	フルート
11	ミュージックボックス	75	リコーダー
12	ピブラフォン	76	パンフルート
13	マリンバ	77	ボトル
14	シロフォン	78	尺八
15	チューブラーベル	79	ホイッスル
16	ダルシマー	80	オカリナ
<b>オルガン</b>		<b>シンセリード</b>	
17	ドローパーオルガン	81	矩形波リード
18	パーカッシブオルガン	82	ノコギリ波リード
19	ロックオルガン	83	カリオペリード
20	チャーチオルガン	84	チフリード
21	リードオルガン	85	チャランリード
22	アコーディオン	86	ボイスリード
23	ハーモニカ	87	5度リード
24	タンゴアコーディオン	88	ベース & リード
<b>ギター</b>		<b>シンセパッド</b>	
25	ナイロンギター	89	ニューエイジパッド
26	スチールギター	90	ウォームパッド
27	ジャズギター	91	ポリシンセパッド
28	クリーンギター	92	クワイアパッド
29	ミュートギター	93	ボウドパッド
30	オーバードライブギター	94	メタリックパッド
31	ディストーションギター	95	ハローパッド
32	ギターハーモニクス	96	スワイプパッド
<b>ベース</b>		<b>シンセ効果音</b>	
33	アコースティックベース	97	レイン
34	フィンガーベース	98	サウンドトラック
35	ピックベース	99	クリスタル
36	フレットレスベース	100	アトモスフィア
37	スラップベース 1	101	ブライトネス
38	スラップベース 2	102	ゴブリン
39	シンセベース 1	103	エコー
40	シンセベース 2	104	サイエンスフィクション
<b>ストリングス</b>		<b>エスニック</b>	
41	バイオリン	105	シタール
42	ビオラ	106	パンジョー
43	チェロ	107	三味線
44	コントラバス	108	箏
45	トレモロストリングス	109	カリンバ
46	ピッチカートストリングス	110	バグパイプ
47	ハーブ	111	フィドル
48	ティンパニ	112	チャナイ
<b>アンサンブル</b>		<b>パーカッション</b>	
49	ストリングスアンサンブル1	113	ティンクルベル
50	ストリングスアンサンブル2	114	アゴゴ
51	シンセストリングス 1	115	スティールドラム
52	シンセストリングス 2	116	ウッドブロック
53	コーラス アー	117	和太鼓
54	ボイス ウー	118	メロディックタム
55	シンセボイス	119	シンセドラム
56	オーケストラヒット	120	リバーシシンバル
<b>金管楽器</b>		<b>効果音</b>	
57	トランペット	121	フレットノイズ
58	トロンボーン	122	プレスノイズ
59	チューバ	123	海辺
60	ミュートトランペット	124	鳥のさえずり
61	フレンチホルン	125	電話のベル
62	プラスセクション	126	ヘリコプター
63	シンセプラス 1	127	拍手
64	シンセプラス 2	128	銃声

## 打楽器MIDI OUTノートナンバー/代替音色リスト

鍵盤	打楽器名	MIDI OUT ノートナンバー	代替音色
C#1	ブラッシュ スラップ	D#0	
D1	キック ソフト	A0	
D#1	ブラッシュ タップ	C#0	
E1	キック	C1	
F1	ハイハット ペダル	G#1	
F#1	オープン リム ショット	A#0	
G1	スネア タイト	E1	
G#1	スブラッシュ シンバル	G2	
A1	スネア	D1	
A#1	クラッシュ シンバル	C#2	
B1	スネア ロール	F0	
C2	フロア タム ロー	F1	
C#2	ライド シンバル カップ	F2	
D2	ミッド タム ロー	B1	
D#2	ライド シンバル	D#2	
E2	ミッド タム ハイ	C2	
F2	ハンドクラップ	D#1	
F#2	ハイハット クローズ	F#1	
G2	コンサート パス ドラム	B0	キック タイト
G#2	ハイハット オープン	A#1	
A2	カスタネット	F#0	
A#2	ハンド シンバル	A2	クラッシュ シンバル 2
B2	タンバリン	F#2	
C3	トライアングル ミュート	G#4	
C#3	トライアングル オープン	A4	
D3	ウッド ブロック ロー	F4	
D#3	ウッド ブロック ハイ	E4	
E3	マラカス	A#3	
F3	ギロ ロング	D4	
F#3	ギロ ショート	C#4	
G3	アゴゴ ロー	G#3	
G#3	アゴゴ ハイ	G3	
A3	ティンバル ロー	F#3	
A#3	ティンバル ハイ	F3	
B3	カバサ	A3	
C4	サンバ ホイッスル ロー	C4	
C#4	サンバ ホイッスル ハイ	B3	
D4	カウベル	G#2	
D#4	クラベス	D#4	
E4	ボンゴ ロー	C#3	
F4	ボンゴ ハイ	C3	
F#4	コンガ ロー	E3	
G4	コンガ ハイ オープン	D#3	
G#4	締太鼓 テン	G0	スネア ソフト
A4	やぐら太鼓	G1	フロア タム ハイ
A#4	やぐら太鼓 粋	C#1	サイド スティック
B4	小鼓 タ	A1	ロー タム
C5	小鼓 ポ	D2	ハイ タム

打楽器は、10chから送信されます。  
バンクセレクトは、MSB=7EH, LSB=00Hです。

**ハーモニー音色について**  
ハーモニー音色は、5chから送信されます。  
バンクセレクトとプログラムナンバーは、以下の通りです。

音色番号	音色名	MSB	LSB	Prog No.
1	クラリネット	00H	70H	72
2	オルガン	00H	70H	21
3	オーボエ	00H	70H	69

バンクセレクトは、MSB=00H, LSB=00Hです。



# MIDIインプリメンテーションチャート

YAMAHA [ Harmony Keyboard -- Keyboard part ]  
Model SHK-1000II MIDI Implementation Chart

Date:1-Jun-2003  
Version : 1.0

Function...	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default Channel Changed	1 1 - 16	1 - 16 x	
Mode Default Messages Altered	3 x *****	3 x x	
Note Number : True voice	24 - 96 *****	0 - 127	
Velocity Note ON Note OFF	o 9nH,v=1-127 x 9nH,v=0	o 9nH,v=1-127 x	
After Key's Touch Ch's	x x	o o	
Pitch Bend	x	o	
Change	0,32 o 1,5,7,10,11 1,7,11 o 5,10 x 6,38 x 64-67 64 o 65-67 x 71-74 72-74 o 71 x 84 x 91,93,94 91 o 93,94 x 96,97 x 100,101 x 120 x 121 x	o o o o o o o o o o o	Bank Select Data Entry Sound Controller RPN Inc,Dec RPN LSB,MSB All Sound Off Reset All Contrls
Prog Change : True #	o 0 - 127 *****	o 0 - 127	
System Exclusive	o	o	
: Song Pos. Common : Song Sel. : Tune	x x x	x x x	
System : Clock Real Time: Commands	x x	x x	
Aux :Local ON/OFF :All Notes OFF Mes- :Active Sense sages:Reset	x x o x	o o o x	

Mode 1 : OMNI ON , POLY  
Mode 3 : OMNI OFF, POLY

Mode 2 : OMNI ON , MONO  
Mode 4 : OMNI OFF, MONO

o : Yes  
x : No

YAMAHA [ Harmony Keyboard -- Sequencer part ]  
Model SHK-1000II MIDI Implementation Chart

Date:1-Jun-2003  
Version : 1.0

Function...	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default Channel Changed	1 - 16 x	1 - 16 x	
Mode Default Messages Altered	x x *****	x x x	
Note Number : True voice	0 - 127 *****	0 - 127	
Velocity Note ON Note OFF	o 9nH,v=1-127 x 9nH,v=0	o 9nH,v=1-127 x	
After Key's Touch Ch's	o o	o o	
Pitch Bend	o	o	
Change	0,32 o 1,5,7,10,11 o 6,38 o 64-67 o 71-74 o 84 o 91,93,94 o 96,97 o 100,101 o 120 o 121 o	o o o o o o o o o o o	Bank Select  Data Entry  Sound Controller   RPN Inc,Dec RPN LSB,MSB All Sound Off Reset All Contrls
Prog Change : True #	o 0 - 127 *****	o 0 - 127	
System Exclusive	o	o	
: Song Pos. Common : Song Sel. : Tune	x x x	x x x	
System : Clock Real Time: Commands	x *1 x *1	x *2 x *1	
Aux :Local ON/OFF :All Notes OFF Mes- :Active Sense sages:Reset	x o o x	x x x x	
Notes : *1 Transmit and receive, if MIDI Control is on. *2 Receive, if external clock is selected.			

Mode 1 : OMNI ON , POLY  
Mode 3 : OMNI OFF, POLY

Mode 2 : OMNI ON , MONO  
Mode 4 : OMNI OFF, MONO

o : Yes  
x : No

音源	AWM2音源
同時発音数	最大32音
鍵盤	49鍵 Cスケール(4オクターブ)
音色	GM音色 128音色(パネル音色24音色を含む) ハーモニー音色 3音色 XG音色 480音色+12ドラムキット (ディスク再生、MIDI入力時、GM音色128音色を含む)
打楽器音色	48音色
リズム	10種類+メトロノーム：8ビート、16ビート、シャッフル、スウィング、マーチ、 マーチ6/8、ワルツ、サンバ、ビギン、チャチャチャ 拍子、テンポ、イントロ/エンディング
効果	アタック、プリリアンス、サステイン、ビブラート、リバーブ、タッチレスポンス、 移調、チューニング
コントロール	全体音量、鍵盤音量、ハーモニー/リズム/再生音量、メトロノーム音量、音域、 移調、チューニング、MIDI
ハーモニー	長調/短調、調選択、音色選択、持続、ハーモニーモード、I、IV、V、V7
ディスクレコーダー	パート(1～6)、再生/停止、曲番/小節、一時停止、録音、繰り返し、フォーマット、 ディスクアクセスランプ SMFフォーマット0または1を再生可能
外部入出力	ライン出力、サステインペダル、MIDI IN、MIDI OUT、TO HOST、 HOST SELECTスイッチ、ヘッドホン
メインアンプ	最大定格出力10W×2
スピーカー	12cmフルレンジ×2
定格電圧・周波数	AC100V、50/60Hz
消費電力	28W
寸法	間口85.5cm、奥行37.5cm、高さ12.6cm
重量	7.5kg
付属品	取扱説明書、操作ガイド、楽譜、保証書、譜面立て、デモディスク

※仕様および外観は、改良のため、予告無く変更する場合があります。

[illegible]



この取扱説明書は  
エコパルプ(ECF: 無塩素系漂白パルプ)を  
使用しています。



この冊子は大豆油インクで  
印刷しています。